

新宿区教育委員会会議録

平成27年第7回臨時会

平成27年7月23日

新宿区教育委員会

平成27年第7回新宿区教育委員会臨時会

日 時 平成27年7月23日(木)

開会 午後 1時28分

閉会 午後 5時38分

場 所 新宿区役所6階第4委員会室

出席者

新宿区教育委員会

委 員 長	羽 原 清 雅	委 員 長 職 務 代 理 者	松 尾 厚
委 員	今 野 雅 裕	委 員	菊 池 俊 之
委 員	古 笛 恵 子	教 育 長	酒 井 敏 男

説明のため出席した者の職氏名

次 長	中 澤 良 行	教 育 調 整 課 長	木 城 正 雄
教 育 指 導 課 長	横 溝 宇 人	新 宿 区 立 中 学 校 教 科 用 図 書 審 議 委 員 会 委 員	小 林 力
新 宿 区 立 中 学 校 教 科 用 図 書 審 議 委 員 会 委 員	中 野 有 一 郎	国 語 科 調 査 委 員 会 長	赤 沼 保 江
数 学 科 調 査 委 員 会 長	中 込 友 則	外 国 語 科 調 査 委 員 会 長	東 孝 夫

書記

教 育 調 整 課 管 理 係 主 査	高 橋 和 孝	教 育 調 整 課 管 理 係	薬 袋 和 明
------------------------	---------	--------------------	---------

議事日程

協 議

平成28年度使用新宿区中学校教科用図書の採択について

◎ 開 会

○羽原委員長 2、3分早いですが、お揃いのようなので、ただいまから平成27年新宿区教育委員会第7回臨時会を開会いたします。

本日の会議には、菊池委員が間もなくお見えと思いますが、定足数を満たしております。
本日の会議録の署名者は、今野委員にお願いいたします。

◎ 協議 平成28年度使用新宿区中学校教科用図書の採択について

○羽原委員長 本日は、議事がありません。

前回に続いて、協議「平成28年度使用新宿区中学校教科用図書の採択について」の協議を行います。

本日は、教育委員会会議規則第15条の規程に基づき平成28年度使用新宿区中学校教科用図書審議委員会の委員と平成28年度使用新宿区立中学校教科用図書調査委員会の各教科委員長に出席していただいております。

本日の協議の進め方ですが、専門的に調査検討を行った調査委員会の各教科委員長から種目ごとに、学習指導要領の中での目標、教科の特性等について、調査委員会における調査の内容、その他評価を決定する上での主な議論などについて、説明を受け質疑を行います。

その後、本日出席の審議委員会委員から種目ごとに審議委員会における審議の内容等について説明を受けまして、質疑を行い、採択の対象となる教科用図書の候補の絞り込みを行います。

本日は、国語、書写、数学、英語の各種目について協議を行います。

なお、本日協議する各種目の教科用図書については、8月7日に開催する予定の教育委員会定例会で採択を行うことを予定しております。

それでは、まず国語について学習指導要領の中での目標、教科の特性等と調査の内容、その他評価を決定する上での主な議論などについてご説明ください。

赤沼国語科委員長、よろしくお願いいたします。

○赤沼国語科委員長 国語科委員長となりました牛込第一中学校長の赤沼保江でございます。よろしくお願いいたします。

国語に関しましては、全部で5者の教科用図書がございまして、資料でお示ししましたよ

うに、4つの観点、内容の選択、構成・分量、表記・表現、使用上の便宜という点からすべての教科用図書を委員で検討いたしました。

学習指導要領における国語科の目標は国語を適切に表現し、正確に理解する能力を育成する。あわせて伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い、言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め、国語を尊重する態度を育てるとなっております。

現学習指導要領に改訂された際の趣旨として、1点目は自ら課題を設定し、基礎・基本的な知識、技能を活用して他者と相互に思考を深めたり、まとめたりしながら解決していく能力の育成という点です。したがって、教科用図書も生徒たちが自ら学んでいく自学自習等について、どのように対応しているかという点を見ました。

平たく言いますと、新宿区の生徒に適した課題が示されているかどうかということを見てまいりました。自分で課題を把握して、学習を進めることができる分かりやすさがあるか。かといって簡単すぎても発展的な学習ができる生徒にとってはいかがかというような点で具体的に見てまいりました。

2点目は言語活動の充実ということが言われている点からも見ております。特に、国語科におきましては、言語活動の基礎を培う重要な教科ですので、多様な言語活動が用意されているかということも判断材料といたしました。話すこと、聞くことで扱われている教材だけではなく、読むことから書くことへ発展し、話すことに展開していくような教材の扱いもありますので、各者の扱いを見てまいりました。

そのほかにも漢字指導の充実ということも言われておりますので、この点についても各者がどのように扱っているのかを見ました。さらには読書指導の充実等につきましてもどの程度触れているか、どのような触れ方をしているのかも見てまいりました。その結果、各者とも学習指導要領に沿って工夫しておりました。各者の特徴的なことについて簡単に触れさせていただきます。

お手元にある教科用図書をごらんになっていただきたいと思います。今回、調査委員会でA評価をつけました光村図書でございます。1年生の最初の方から、ページで言いますと、18ページから授業にあたっての様々な要点を示しておりまして、生徒の授業への姿勢を指導するのに使いやすくなっています。

さらに、少し戻りますが、目次を見ていただきたいと思います。2ページからです。目次を見ますと、1、第一単元学びを開く、から始まりまして、新しい視点へ言葉をつなぐ等々、学ぶ内容や態度目標的なものとなっております。従来からの態度目標を中心としたオーソド

ックスなつくりで安定感があり、教材選定にもバランスがよいという意見で、A評価をつけさせていただきました。

次に、同じくA評価をつけました三省堂です。三省堂は前回の教科書は唯一分冊で資料編が独立しておりましたが、今回、1冊となりました。資料の充実といった点では前回同様に充実した資料が揃っております。かつ合本になったことで使い勝手もよくなっているという評価をつけました。

掲載教材が精選されたものになっております。1年生の目次をごらんください。2ページからでございます。第一単元、分かりやすく伝える。関わりをとらえる。と順に続きます。目標が明確に単元名になっております。

今、目次を見てまいりましたので、次に学校図書の目次も見たいと思います。

学校図書1年生の目次。最初のところでございます。1、絆、家族の中で。2、命、命の鎖。というように、単元名が非常に特徴的でございます。そして、それぞれの単元の初めに、扉のところに詩を載せてございます。さらには、各単元に選択教材というものが掲載されている構成で、ほかの4者に比べて教材の量も多くなっています。

このように目次を何冊か見てまいりましたが、目次という点から見ると、光村図書や三省堂と同様の形をとっているのが教育出版、東京書籍です。学校図書の特徴と教育出版、東京書籍それぞれ工夫点があり、この3者についてはB評価といたしました。

次に、先ほど申し上げた学習指導要領の自ら課題を設定し、基礎・基本的な知識、技能を活用して、他者と相互に思考を深めたり、まとめたりしながら解決していく能力の育成、という点で、生徒たちが自ら学んでいく自学自習等についてどのように対応しているかについて調査委員会として確認したところについてご報告いたします。

各者とも1年生で、『少年の日の思い出』を扱っておりますので見ていただこうと思います。

光村では、216ページです。

『少年の日の思い出』の最後のところです。自学自習用の工夫がなされているところです。

次に三省堂では、163ページです。教育出版では、203ページになります。東京書籍におきましては、169ページでございます。最後の学校図書では234ページ。それぞれ同じ教材に対して、学びの窓ですとか、手引き、道しるべなどで自学自習の手引きを示しております。

光村はここで確認しよう、読みを深めよう、自分の考えをもとうという形で、学習課題を自分で考えられるように示し、さらには広げるために学びの窓や次につなげようなどの発展

的な活動への働きかけがあります。

三省堂では、内容を整理しよう、考えを深めようとして、焦点を絞った課題設定をしています。さらには次のページでは読み方を学ぼうという発展的な扱いも示しています。

教育出版では、目標と振り返りを示した後で、確かめよう、深めよう、考えよう、といった課題を示しています。

東京書籍は読み取ることと考えを深めることを示しております。

最後に学校図書では読む前に読みを深めるまとめとして、読みを深めるためのヒントを示しています。

このように各者とも工夫しておりますけれども、その内容の扱いの深さ、それから課題の量についてはこうして比べてみると大変よく分かると思っております。

そして、付け加えますと学校図書の課題については、非常に大きなところを投げかけておりますので、これを使ってすぐ答えられる生徒というのは少ないかもしれません。少し細かい説明がないと、これだけでは自学自習に取りかかれないという感じの設問でございました。

このように各者の工夫を調査委員会で確認した上で、お手元のような結果を出させていただいております。

○羽原委員長 説明が終わりました。ご質問、ご意見があましたらどうぞ。

○古笛委員 今、お話しいただいたことにも関連しますが、同じ教材を使って、学校で授業を受けて、自学自習も家庭でできるようにということです。各者の教科書が自学自習のときに子どもたちにどのようにアプローチしているか、特徴的なところをそれぞれご説明いただけたらと思います。

○赤沼国語科委員長 まず、光村ですけれども、先ほどのお話と少し重複するかもしれないのですが、先ほど例に挙げさせていただきました216ページをごらんください。光村の教科書では確認しよう、読みを深めよう、自分の考えをもとう、というこの3段階がどの教材でも同じように扱われています。そして、最後のところでやはり学習を振り返るという目標に対しまして、216ページの最初の目標がございます。その目標に対しまして最後の振り返り、217ページになりますが、学習を振り返るというようにここがセットになっています。ですので、自己評価をここでも行うということを徹底しております。

それから、特徴的なのは学習の窓、語り手に着目して読むということで、ここでは視点を少し変えた形の課題を示しています。そして、最後は、217ページの別の人物の視点で書くということ、読解した作品をもとにして、今度は読むから書くというところに展開をし

ていく誘導といいますか、そういう課題を設定しているというのが光村の特徴的なところで

す。
そして、学校図書も234ページを見ていきますと、設問の数は結構多いのですが、ここは読む前ということ、それから読み深めるという段階を追って、読みを深めていくような課題が設定されています。そして、最後の②のところ、客が語った云々のところですが、その①、②、③、④の問題の投げかけ方が、ある程度読みを深めた後でないと、自分でまとめられないような設問になっております。

ですので、自学自習という意味では、こここのところまで最初から自分の力だけで進めることのできる子は経験上あまりいないので、復習的な部分でここは使えると思いました。

他の3者につきましては、非常にポイントを絞っている形での課題が示されています。同じように確かめよう、深めよう、考えようというように、教育出版なども課題を例示しております。課題の数も非常に絞り込んでおりまして、この作品を読みながら中心課題、中心になるものを挙げて、そこを自学自習で読み取っていきなさいと、そういう姿勢のように感じられました。以上でございます。

○松尾委員 国語科で自学自習ということは、自学自習すること自体はそうやってできると思いますが、これは自分のつくった解答、答案が的確なものであるかどうかというのは、やはりある程度評価してもらわないといけないように思います。例えば漢字の書き取りとか、自分で答え合わせをしてある程度自分で評価できる部分もあると思いますけれども、特に考えを述べるというところについては、これで考えを述べたことになっているのか自分ではなかなか分からないところがあると思います。そういった場合には、教科書で自学自習をしようと思った場合には、どのようにしていくのが現実的によろしいのでしょうか。

○赤沼国語科委員長 今、ご指摘のあったように国語科はほかの教科と比べて、教科書の作りが特徴的でございます。その題材を読んだだけで何かの力が身に付くという、そういうものではありません。ですので、自学自習を進める際には、やはり授業の中で、先ほどの自学自習の課題を幾つかを扱います。そして、その中で自分が考えてきたことの正当性といいますか、さらに深めるというような授業の展開を教員がしていくという形になります。

そして、最後の設問に対する答えは、正しいか正しくないかというよりは、深いか深くないかという視点で考えていく教科だと思っておりますので、○か×というような解答の出し方は恐らくどの教員もしていないと、そのように思います。

○松尾委員 全くおっしゃるとおりだと思います。そうするとなかなか自学自習をしづらい面

があるかと思えます。場合によっては、例えば自分で考えをまとめて、レポートのようなものを先生に出して見てもらうなどの形で誰かに評価してもらわないと、自分だけでは勉強が進まないのではないかと思います。そういう観点から見て、これらの教科書で、学校で実際に使って、生徒が積極的に取り組んだときに先生がそれに答えてあげられる、そんな教科書になっているかどうかという点ではいかがでしょうか。

○赤沼国語科委員長 生徒はやはり先ほど指摘いただいたようにレポート、作文、そういうものでどのぐらいの読みの深さまで到達しているかというのを教員は評価しております。

そして、その課題に対する深め方を手引きとしてそれぞれの教科書が中心課題として示すのか、または、1つ1つ細かく、ここに注意しながら深めていきなさいという形で示しているのかの違いが今見ていただいたところであると私は考えております。

さらには、今、若い教員も多いものですから、そういう教員がこの教科書を使って、子どもに教えるときに、どのように、どこまで細かく表現に則した読み取りをさせていくかというものの手助けにもなります。そういう面で、5者の教科書はそれぞれ特徴がありますけれども、非常にバランスがよかったのはやはり光村かなと思えます。

○羽原委員長 ほかにいかがでしょうか。

○今野委員 個別の質問になりますが、学校調査票を見てもみると、幾つかの教科書で落語が入っているのが評価のポイントだと評価されているところもあります。私は落語が好きなので、教科書に落語が入っているのはとてもいいことだと思っておりますが、実際の教科書での取り上げ、あるいは学校での指導、どのような内容に位置づけられるのか、その辺りをお伺いできればと思います。

○赤沼国語科委員長 話す、聞くという領域がございますので、主に話す、聞くというところで扱う、または古典の教材の入口として扱うという扱い方がございます。

○羽原委員長 僕からも教えてください。直接、採択の問題の話とは別ですが、例えば『竹取物語』とか、ヘッセの『少年の日の思い出』とか、各教科書に出てくるわけですが、これは文部科学省の指定書籍的なところがあるのですか。

○赤沼国語科委員長 国語の場合は、指定という教材はございません。音楽などは指定された楽曲がございますけれども、国語ではそういうものはございません。

○羽原委員長 各教科書共通して、『竹取物語』や、例えば『矛盾』など、どの教科書も使っているというのは各教科書会社の選別による、編集員の選択ということですか。

○赤沼国語科委員長 おっしゃるとおりでございます。やはり普遍的な価値のあるものと

か、教材として非常に教えて、学習効果があるものというのは精選されてまいりますので、各者とも同じような教材が入ってくる場合がございます。

○羽原委員長 それから、もう1点。新聞社でいうと句読点が1カ所違うと作家から大抗議を受けて、もう書いてもらえないという、そういう話がときどきあります。改めて伺いたいの、例えば『少年の日の思い出』の三省堂の152ページと光村の202ページと冒頭のところを比べても、光村のほうは相当句読点を追加しているし、それから「僕」は漢字を使っている。三省堂はひらがなになっていたり、多少の加工が入っています。つまり、これらが許容の範囲であるのか、あるいは著作権にかかわりなく、教科書の場合は編集してもいいものなのか。例えば僕が1カ所気になったのは、光村の203ページの2行目の、夜の色と「の」が入っています。

それから、三省堂の152ページの終わりの2行の下のほうに、青い夜色に閉ざされてと、こういうところまで加工していいものなのかと、参考のために伺っておきたいと思います。

採択上、問題があるということを行っているのではなくて、教科書は、編集する範囲が許容されているとは思いますが、「夜色」と「夜の色」は少しイメージが違います。句読点、漢字かひらがなといったあたりは教科書で中学1年生だから、許容の範囲なのかなと思いつつ、厳密に言えばどうなのか。もしお分かりなら、教えていただきたい。教育指導課長でもよろしいです。

○教育指導課長 私も確認したわけではないのですが、それぞれの教科書会社の出典が光村図書はヘルマン・ヘッセ全集第2巻となっています。一方、三省堂は、出典、ヘッセ全集2となっています。恐らくこの出典の違いで表記の違いが生まれているのではないかと想像します。このようなことは、その本が出版された時期や、どの時代に出版されたものを引用しているかによって多少違いが出てくる場合があります。文意が変わっていないという意味では、どちらの教科書を選んでも同じように指導ができると考えております。

○羽原委員長 出典次第ですか。これはまた教科書から離れるが、出典自体があれこれいじられていていいのかなと、そう思っただけです。確たる話が聞ければありがたいと思いました。ほかに何か。

○松尾委員 私は理科系の者でございまして、小学校、中学校のころは国語がとても苦手を感じておりました。なかなか自分の考えを書くということも難しく、何を書いたらいいのか、思いあぐねているうちに、どんどん時間が経ってしまうような、そんな思い出があります。一方、逆にその説明文のようなものは、どちらかという得意で、いろいろな文章を読ん

で、ああ面白いなと思ったりしていたこともあるのですが、必ずしも私と同じようなタイプでなくてもいいのですが、国語が苦手な生徒にとって、学びやすいという観点で見ると、どのような工夫があると良いのでしょうか。

○赤沼国語科委員長 国語が苦手という子どもは、恐らく文学的な文章が苦手な子が多いように思います。説明的文章は読解の仕方といいますか、一定の技術を教えればできるようになります。ですから、例えば段落の構成、指示語に注目するとか、どのようなスキルが身に付くと読めるのか、また、書いてあることが分かるかということをお教えることはできます。

文学的な文章、あるいは和歌、俳句、そういうものについては、個人の体験ですとか、読書量、そういうものも関連します。これを教えたからできるようになるというわけではなくて、トータル的に読書にいざなうとか、先ほどもありましたけれども、言葉への感性を育てるような帯単元ですとか、そういうものをしていくことで、階段を上がるというよりはスパイラルのような形で少しずつ上がっていくような指導ができるような教科書が力をつけることになると思います。

そういう意味では、どの教科書も工夫されていますが、例えば説明的文章にしても、1回読んで分かってしまうだけでは困るわけです。やはり少し難解なところがあって、そこを追究していくことで力がついていくということを、1年生から2年生、3年生というようにスパイラル状に上げていくような教材の選び方をしていく、そのように思っております。

○松尾委員 その説明的な文章と文学的な文章ということですがけれども、三省堂の1年生の136ページのところに討論ゲームという、論理で迫るか感情に訴えるかという、なかなかそのものずばりの大変面白そうなゲームがあります。これは討論するということですがけれども、やはり様々な文章にはいずれにしても論理的な側面もあれば、感情的な側面もあって、それが恐らく文章の中では、それが混在しているのではないかと思います。全く説明なしで感情に訴えることはできませんし、感情だけで説得することもできないと思いますので、恐らく両方合わせてうまい具合に書かれているのがきっと名文だろうと想像します。このように思って見ると、様々な文章の中でそれを理詰めで読み解ける部分もあれば、経験に従って感情を読み解いていくという部分と両方あると思います。必ずしも明確に分けられるようなものでもないように思います。

ここの部分では、非常にそのものずばり書いてあって、とても明瞭だと思ったのですがけれども、実際文学的な作品においても読み解くに当たっては、そういう理詰めでいける部分とそうではない部分というのを頭の中で、あるいは紙に書いて明瞭にしていくような学び方と

というのは、うまくできるものでしょうか。

○赤沼国語科委員長 今のご質問ですけれども、今回、どの教科書もそうなのですが、話す、聞く、という部分で、非常に工夫された題材も使っております。グループディスカッションが入ったり、このように討論ゲームが入ったり、パネルディスカッションが入ったり、そういう自分一人ではなかなか整理ができない考え方を話す、聞く、の領域で複数の生徒で国語を学習するということはそういうことだと思います。異なる意見を聞きながら、それを整理して、そして自分たちの考えをまとめていくとか、明確にしていくということが、学習指導要領でも力を入れているところですので、そういう学習ができるような工夫は各教科書、どこにおいても、どの教科書でも非常にうまく扱っていると思っています。

○羽原委員長 教育長、何かございますか。

○教育長 1点教えていただきたいのですが、三省堂だったと思いますが、資料の使い方が1冊になって使い勝手がよくなったというお話ですが、例えば具体的にはどのようなことでしょうか。

○赤沼国語科委員長 前回、分冊でございまして、今回もその名残といいますか、後ろに資料編として入っております。この資料編が合本になったことで、1つの教科書の中で資料の部分を教員が示しながら、前から後ろにめぐりながら、また、元に戻るといったような指導ができるというのが1つございます。

○羽原委員長 よろしいでしょうか。ほかにご質問等がございませんので、次に書写について、学習指導要領の中での目標、教科の特性等々、調査の内容、その他評価を決定する上での主な議論などについて引き続き赤沼委員長からご説明ください。

○赤沼国語科委員長 それでは、続きまして、書写について説明させていただきます。書写につきましては、学習指導要領では、指導計画の作成と内容の取扱いが書写指導について含まれております。書写指導の目標は文字を正しく整えて速く書くことができること、ですけれども、それだけではなく書写の能力を学習や生活の場で役立てる、ということが重要でございます。各者とも実生活や学校生活の場面で生きる材料、教材を工夫しております。その工夫の部分については、調査委員会でもよく見ました。

また、毛筆が硬筆書写の基本となるものであるということも加えて見てまいりました。つまり、芸術的な毛筆書道ではなく、中学校書写では毛筆は硬筆書写の基礎・基本を身に付けるためというとらえ方をしております。

毛筆手本を硬筆の基本として押さえた上で、限られた指導時間の中で短時間での習得に資

するものであることも大事になってきます。

ちなみに、書写の指導時間は、1、2年生では20時間、3年生では10時間程度となっております。さらには、書写は実技でもあるため、教室の机の上で書道の道具と手本を扱う際の使い勝手、筆使い等の指導のしやすさも見てまいりました。このような調査委員会の調査結果からまずはどの会社のものも生活や学習の場で生かす書写を意識しております。

例えば、光村で見ますと、59ページ以降、資料となっているところがございます。ここで手紙やはがきの書き方、のし袋や願書の書き方、荷物の送り状の書き方など、生活場面の手本。続いて、ノートのまとめ方やレポートの書き方、それから職場訪問新聞のつくり方、リーフレットの例を示しております。

同じように、次に学校図書を見ていただきますと、86ページ、書写を生活に生かそうということで、日常生活に密着した教材がこのように豊富に取り上げられているのは光村同様でございます。

もう一つ見ていただきますと、東京書籍は版も大きくて少し厚みも増えているのですが、後ろのほう、86ページにノートの書き方、効果的に書こうというところです。次に、絵はがきや電子メールを出すとき、さらにはポスターの書き方。文化祭や卒業式に向けて、さらには先ほどと同じように96ページ、97ページは入試に関する願書や志願理由書の書き方などがここに出ております。このように各者とも生活場面や学習場面での書写の手本が多く示されております。

次に毛筆の指導の部分ですけれども、教育出版の教科書をごらんください。

最初のところで12ページ、ここに筆使いで色の濃淡で筆の力の入れ方とございますか、そこがあらわれております。これは生徒にとって分かりやすいだろうという意見が出ました。今は、筆記用具が固いもの、シャープペン、ボールペン、そういうものを扱うことが多く、それらは一定の力で線を引いていく筆記用具ですけれども、生徒にとっては筆のような柔らかい筆記用具を使ったときに、どこで力を入れて、どこで力を抜くかということの経験がないものですから、難しくなっております。

このような色の濃淡で力の入れ方を示すというのは他の教科書にもございます。例えば、三省堂の9ページ。ここで筆使いを確かめようということで、先ほどの教育出版同様にオレンジ色のところが穂先を示しております。穂先をどこに置いて、どのように筆を引っ張っていくのか、止めるのかということが生徒に分かりやすく書かれているところがございます。

ただし、教室では筆運びの指導は教科書でもするのですが、水黒板を使う、それから今は

デジタル資料によっても指導することができますので、教科書だけで扱うわけではないということも考慮いたしました。

それから、毛筆について最初に申し上げましたように、硬筆の基礎という押さえをしておりますので、手本の言葉、それからその字体の好みといたしますか、そういうものは評価に入れておりません。

毛筆の基本を習得させて正しく、早く書くことにつながる指導をしやすい教科書ということで、評価しております。総合的に見て、少ない指導時間の中で、本編の手本を使いながら適宜資料編を利用して指導しやすいというもので光村の教科書に高い評価をつけております。

また、光村の書写の教科書は国語の教科書とも連動している部分がございますので、書写の時間だけではなくて、国語の時間の中で、俳句、短歌、そういうものを書写、硬筆で書写するという時間をとるといっても可能になっております。

○羽原委員長 説明が終わりましたが、ご意見、ご質問はございますか。

○松尾委員 この書写の教科書を学校の現場で実際に使用する場合には、どのように使用することが多いのでしょうか。つまりこれを机の上に置いて、見ながら使うとか、あるいは一旦これを見て、覚えたら、実習というか実際に書くときにはしまうのか。あるいは、新宿区の場合はICT機器がございますので、実物投影機を使うのか。いろいろな使い方があろうかと思うのですが、実際には、どういう使い方が想定されるのでしょうか。

○赤沼国語科委員長 ICT機器を使うのは主に最初の説明とか、そういうところで用いることが多いです。または練習の途中で一度止めて、足りないところをもう一度指導するときにも使います。

教科書を使うのは、その指導されたことに注意しながら、実際に半紙に書く段には、少し狭いのですが、机の横に手本を置き、そして半紙をその横に置き、そこで手本、教科書を見ながら練習するというのが多いと思います。

○古笛委員 先ほど、国語との連動という話がありましたけれども、国語の教科書とこの書写の教科書、同じ出版社のところを使いやすいのか、それともその点はそれほど気にする必要はないのか、ご意見がありましたら教えていただけたらと思います。

○赤沼国語科委員長 結論を端的に言うと、別々でもきちんと指導ができます。ただ光村は国語の教科書の一部をとっているのです、もし光村になるならばその利点を利用できるという報告でございます。

○今野委員 どの教科書も従来の習字の練習だけではなくて、様々な文章、書式の書き方、生

活の中で必要になってくるものが多様に入っていて、とてもいいと思いました。どの教科書もかなりそういうものが、特に資料編のような形でたくさんあるようです。そういった多様な資料がたくさん入っている。あるいは教えやすいという観点から言うと、どれが一番いいという判断ができたのか、そのあたりお聞かせください。

- 赤沼国語科委員長 お手元の報告書にございますように、指導時間が非常に少ないのですが、その中で1年生から3年生まで、書き初めをやっております。これはもうどの学校も恐らくやっておりますので、書き初めの事前の指導とそれから本番を入れたりしますと、結構な時間が取られますので、残りの時間を使うということになりますと、扱う教材はそんなに多くはできないというのが現実でございます。

ですので、教材は少なく精選されているけれども、必要に応じて資料のようなものを活用できる教科書が一番現場には使いやすいのではないかとということで、今回のような調査結果になっております。

- 松尾委員 書写の勉強をするに当たって、子どもたちのやる気といいますか、書こうという気持ちをかきたてることも必要ではないかと思えます。きれいな字を書きたいという気持ち、それに学校の授業がそれに応えて、そしてきれいに速く字が書けるようになるということです。

そういう観点からすると、実際の字のお手本がどうかということは評価の観点にないということでしたけれども、例えばこういう字を書いてみたいという気持ちにさせるような、そういうお手本のようなものがあることは、子どもたちの学習意欲をかきたてるという点でプラスであると思えます。あるいは、実態そのものよりも文章の中身、手紙、ポスター、子どもたちにとってそれなりに身近な題材で、こういうものを作ったり書いたりするときにはきれいで、人に訴えるような字が書けた方がいい、という題材です。そういった目で見ると、各者何か違いがございますか。

- 赤沼国語科委員長 そういった目で見ますと、例えば東京書籍の64ページなどは、子どもたちの関心、好きな言葉を書こうというようなページがございまして、お手本を練習するだけではつまらないという生徒にとっては、こういうページなどは非常に興味、関心をわき立たせる工夫がされていると思えます。これは1つの例でございます。東京書籍はこういう扱いをしております。

- 松尾委員 そういう目で見ると、どちらかというところと光村はあっさりした感じですが、三省堂はいかがでしょうか。各者それぞれの観点での工夫がされているということでしょうか。

○赤沼国語科委員長 今、おっしゃられたように、光村はそういう面から見ますと本当にあっさりしております。ですので、毛筆の学習というのは硬筆へつなげるための基本的なことを習得するための見本という、そういう考え方に徹しているのではないかと拝見しました。

ほかのところでは、どこも書込みをする部分が多くございますけれども、毛筆のお手本としては、学校図書などは折り込みで長い書き初め用のお手本が相当充実していると思います。紙質も少し異なったものを使っておりますし、そういう面ではこだわりがあると思いました。

○菊池委員 質問ですけれども、国語の一環として書写があつて、書写は1年生、2年生、3年生とありますが、授業を進める中で、どの辺とどの辺がつながるのでしょうか。

1年生で、どの単元を教えていく段階で、書写が出てくるとか、それを教えていただけますか。

○赤沼国語科委員長 光村ですと、32ページ、季節の言葉を書いて味わおうというところがございます。

○菊池委員 授業時間の進行具合として、どのタイミングで書写が出てくるのかというのは、春1回とか、そんな感じでしょうか。

○赤沼国語科委員長 そういうことではございません。書写の時間として年間に何時間か決まった時間を指導しますけれども、それとは別に教科書で国語を習っているときに、硬筆として50分の授業の中で、何十分かをとっていくという方法も折り混ぜています。

書写の教科書の32ページのさくら、さくらのところは、光村図書1年生の35ページに季節のしおり春、ということで、ここに同じものがございます。このように連動して教えていくのはその季節、季節の中で扱うように構成されているということです。

○菊池委員 個人的な感想ですけれども、光村の35ページ、春、夏、秋、冬の季節のしおりとこのを見て、とてもいいなと思っていたのですけれども、それとリンクするというのはいいですね。

○羽原委員長 よろしいでしょうか。

それでは、書写を終わりたいと思います。

赤沼国語科委員長、ありがとうございました。

○赤沼国語科委員長 ありがとうございました。

○羽原委員長 次に数学について、学習指導要領の中での目標、教科書の特性等、調査委員会における調査の内容、評価を決定する上での主な議論などについて、ご説明ください。

中込数学科委員長、よろしく申し上げます。

○中込数学科委員長 数学科調査委員会調査委員長の牛込第三中学校の中込友則でございます。
どうぞよろしく願いいたします。

まず、初めに中学校の学習指導要領に記載されている数学の目標について改めてお話を
していきます。

数学的活動を通して、数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解
を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得し、事象を数理的に考察し表現する能力を高める
とともに、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、それらを活用して考えたり判断したり
しようとする態度を育てることが数学の目標になっています。

今回、学習指導要領の改訂があったわけではないので、これまでと同様に数学を学習する
ことの意義や楽しさを実感できるような数学的な活動を設けるということが重要になってき
ます。

また、生徒の学習を確実なものにするために、既習内容を繰り返し学習するスパイラル学
習、学び直しの機会を設定するということが随分定着してきています。さらに、課題学習と
して思考力、判断力、表現力の育成を図る教材も取り入れられているところです。

数学の領域の構成としては、数と式、それから図形、関数、資料の活用という4領域から
なっております。週の授業時間数は1年生が週4時間、2年生は週3時間、3年生が週4時
間となっていますので、1年生と3年生はほぼ毎日、数学の授業が行われているという、そ
ういった時間数です。

数学科の調査委員会では、7者について調査をいたしました。内容の選択、構成・分量、
表記・表現、使用上の便宜について、新宿区の子どもたちにとって、使用しやすいものはど
れかという観点とベテランの教員と若手教員の両方が学校にいる関係から、教員にとって指
導しやすいものはどれかという観点でも調査をしてまいりました。

さらに、新宿区の多くの中学校では、習熟度別の少人数授業を行っていることから、基本
と発展が適切に入っているかどうかなどについて調査をいたしました。どれも検定を通過して
いる教科書ですので、分かりやすく工夫されていました。また、参考書的な要素が強くなり、
家庭学習に対してもすべて対応しておりました。

それぞれの教科書について、調査委員会で出た内容で、報告書にはないこととお話しして
いきたいと思っております。

まず、東京書籍ですが、例題、たしかめ、問というような、そういった一つ一つの問題が
パターン化されております。

例えば、1年生の87ページでも分かりますように、例題、たしかめ、問というのが順番に並んでおります。そういったパターン化されているところで分かりやすいと思っるところです。また、さらに数学的な活動の中では、ちょうど1年生の後ろに付録がついてまして、それが正多面体の模型の展開図をつくって、立体化してそれぞれ調べていくというものがすべて掲載されているというのが東京書籍の主だったところです。そういった意味からトータル的にとてもバランスがいいのでAという評価をつけました。

続きまして、大日本図書です。書込み式の参考書的な内容になっておりますので、自学自習しやすく、また基本的なところを押さえやすい教科書であろうと思います。中をざらんになっていただければ書込み式が中心になっている形だと思います。総合評価はBをつけました。

続きまして、学校図書でございます。学校図書については章のまとめの問題に活用の問題をまた巻末にはコミュニケーション能力育成のために表現する力を身につけようを設けているところです。

また、家庭学習に対応した家庭の学習問題として、例えば1年生の107ページ、計算力を高めようという、そこの横に家庭学習や計算練習で利用しましょうという項目も設けているところが特徴です。

続いて、教育出版です。たしかめ、または基本のたしかめなどを本当に復習に徹している教科書であります。また、1年生の302ページ、索引が英語表現になっております。これはほかの教科書にはないものなので、とても先進的で分かりやすく、それから外国籍の生徒にとってはとても良いということが調査委員会の中では大きい話題になりました。総合評価はBです。

続いて、啓林館です。啓林館は、MathNaviブックという別冊の2部構成になっているというところが特徴です。それから、問題も例題と問という完全にパターンになっておりますので、家庭でも例題、問というように学習ができるようになっております。また、すべての単元のところの導入部分に数学的な活動の題材を設けているという、そういう特徴があります。評価はAです。

数研出版です。初めに、巻末にチャレンジ編というものが豊富にあります。ですから、課題学習にはとてもいい題材が載っているところです。それから、小学校とのつながりのところでは、はじめのところにクイックチャージというものがありまして、そこで小学校との連携ができています。さらに、章の問題、どこを見ていただいてもいいのですけれど

も、基本、A、B、発展という4段階に分かれておりますので、自分の習熟度の段階によって問題を選ぶことができると思っています。評価はBです。

続きまして、日本文教出版です。随所にチャレンジ問題というのが入っています。例えば、1年生の99ページ、右側のところにチャレンジというふうに問4のところの横に載っておりますように、何かまとまってチャレンジ問題があるのではなく、その問の横にすぐにチャレンジするような問題があるということが特徴だと思います。

さらに、章の問題をどこでもいいので、見ていただきたいのですが、章の問題のところではたしかめというところではたしかめというところには観点別評価の知識、技能などそういったところが載っております。これが載っているのは、教育出版も載っているのですが、そういったところが特徴であることと、あととても紙質がよくて、明るく見やすいというところが大きい特徴であります。

さらに、章の問題を見ていただいたところですが、繰り返しの練習で、たしかめ、取り組んでみようと、やはり習熟度別にきちんと分かれていますので、適切に問題を選びながら進めることができるのではないかとということで、A評価をつけております。

以上が、数学の調査委員会で主に出た内容であります。どうぞよろしくお願いいたします。

○羽原委員長 説明が終わりました。ご質問、ご意見がありましたらどうぞ。

○松尾委員 数学の学習には良い側面があります。1つには物事を理解する、数学の中身を理解するということと、それからもう1つは技能を身に付けるという側面、概ね2つの側面があります。

その2つのものは、もちろん密接に関わっているのですが、その学習における態度というのは必ずしも同じではない部分があるわけです。つまり理解するというのは、自力で理解できるぐらいなら、何もする必要がないぐらいのものですから、自力ではなかなかできない部分があって、やはり先生の説明を理解することがまず軸となって理解する、という部分があるわけです。

一方、技能を身に付けるという面も数学にはあって、それは将来につながっていくわけですが、そのときに学んだことをしっかり生かして問題を解決できるようになる。そのときにできるようになるべきことはできるようになっておかないと、それを使ってその次のステップと次々にステップアップしていくわけですから、やはりその段階でしっかり身に付ける技能は身に付けていかないといけないという部分と両方あります。

2つの見方があるのですけれども、例えばノートの作り方が各者載っていますが、その

学習のステップでどういうことをその場で学んでいるかということによって、そのノートのつくり方も当然変わってくるのではないかと、授業のあり方も変わってくるのではないかと、思います。つまり授業の初めの段階で今から新しいことを勉強しますというときに望ましい授業のあり方、そして子どもにとっては勉強の仕方というのがあります。

それから、技能につながっていくのですけれども、最初に新しく学ぶことを勉強して、次にそれを確認するというステップが入ってくると思います。それは、問題を実際に学んだことをその問題にあてはめてみることによって、自分の理解が正しかったかどうかということを確認する。今度は、それまでに学んだことを総合的に生かして、問題解決につなげていく。技能を向上させる。

もちろん細かく言えばもっといろいろなことがあるかもしれませんが、各ステップで授業の進め方というのも変わってくると思いますし、それに応じてノートのつくり方というのも変わってくると思います。そのあたり、各者のノートのつくり方の例というのは、あくまで例ですから、必ずしもそのとおりでなければいけないというわけではないのですけれども、いかがでしょうか。うまく授業にマッチするのでしょうか。

○中込数学科委員長 授業にそのノートのつくり方がマッチするかということで、ノートのつくり方というのは、各者それぞれ一番初めの例のところ載っております。例えば、東京書籍の1年生のところを見てください。7ページです。

数学マイノートとなっていて、学習の進め方のところ、ノートのとり方が書かれている、さらに下のところでは誤りは消さずにこのように書きましようとか、図形は丁寧に書きましようとか、そういったようなことが書かれており、さらに中のほうにも、1年生の数学マイノートの50ページのところにも、生徒がつくっているノートの様子が書かれています。ですから、こういうノートを参考にして、それぞれノートのとり方をそれぞれ工夫しますけれども、こういった工夫の仕方がありますという、そういうポイントが書かれているところです。

○松尾委員 今、ご説明していただいた50ページ、51ページというのは、これは身長を平均を工夫して求めてみようとなっています。ですから、これは問題に取り組むのに様々な取り組み方があって、それをケーススタディのような形式で、いろいろな解き方というものを挙げていって、それで理解を深めるとともに、うまく問題に取り組めるようにしようという意図だと思えます。いつも授業がそのように進んでいるわけではないと思えますので、そのあたりのことが聞きたいと思えます。

また、このページに関して言いますと、例えば自分の考えと友達の考え1、友達の考え2

とありますけれども、別に自分の考えが3つあってもいいですよ。というか、第一にいろいろなやり方を考えてよという設定だとしたら、まず自分で3つ、4つ考えてみる。それで例えば友達の誰かの考えは、自分の考えの2番目と同じで、例えば先生と質疑応答した結果、これはこの辺に弱い点があるとか、ここを少し間違ったとか、そういう問題点が出てきたとすれば、それに合わせて自分の考えの部分を直していく。というのが望ましい勉強の仕方ではないかと思います。

だから、自分の考え1つで友達の考えが1と2、これは必ずしもそのようにしなくてもよいのではないかと正直思います。

○中込数学科委員長 まさしくそのとおりだと思います。数学では、課題があって、それから結論、結果まで導くのに、そこにたどり着く道のりがあると思うので、Aの形で導く、また、B、Cとたくさんある、そういった方法をそれぞれ導き出して、その中で一番適切に早く、正確に結論まで行くのにはどうかということで、論理的に考えていくというのが数学であろうと思います。授業の中では1つの解答だけではなくて、別解とか別な方法で考えてみようということで扱っています。

○松尾委員 これはすべての問題にわたってこういう討論のようなことをする時間的余裕は恐らくないと思います。そうすると例えば自分で問題に取り組んで、時間との相談ですけれども、2つ、3つの解き方ができればいいですけれども、限られた時間でやる場合には、1つ自分でこれが一番いいと思うやり方でやっていくと思います。そういったときのノートはこういうふうになるかと、そうではないですよ。だから、その場、その場でノートの使い方というのは使い分けていく必要があると思うし、極端なことを言うと、僕は、数学は3つぐらいノートがあったほうがいいと思います。

第一に、数学の授業の時間に東京書籍の50ページはすごく丁寧にきれいにまとまっていて、大変きれいで素晴らしいなと一見思うのですが、こんなにきれいに授業中書いていたら、書くだけで時間がものすごくかかって、本来学ぶべき数学よりもきれいにまとめるほうにエネルギーが行ってしまい、数学の勉強にとって僕はマイナスではないかと思います。

だから、授業中にノートをとるのであれば、ここまできちんとしなくていいと思います。必要なポイントがしっかりと押さえられて、ノートがとられていればそれでよいと思います。

ただ、まとめるということもすごく大事なこともあって、自分でまとめることによって非常にすっきりと理解できるという、まとめること自体のプラス面があるけれども、それはこ

こではないと思います。そうではなくて、一通り授業が終わって単元が終わって、一通りいろいろなことを勉強したなど、それでいろいろな解き方も学んだなどというところで、最後に自分でそこまでまとめてみたこと、勉強したことをきれいにまとめるということがすごいプラスになると思います。授業のノートづくり方として、僕は、これは、望ましくないと思います。

○中込数学科委員長 例えば、啓林館の数学の1年生の10ページ、11ページにも同じように子どもたちが書いたような、そういったノートを工夫して学習に役立てようという、こういうふうに書きなさいというのではなくて、こういった書き方もありますよという例を示しています。これも1つ特徴であると思っています。

子どもたちはノートづくり方は教科によっても随分違うので、1つ例を示してあげるとそれからまた工夫して発展していきます。中学生はなかなか自分ですべて考えてというのが難しいので、幾つかだけでも工夫する例があると、ノートのとり方も違ってくると思っています。

○松尾委員 今、先生はノートをつくとおっしゃいました。教科書にはノートをとると書いてあるところが多いけれども、先生のおっしゃるノートをつくるという方が僕は正しいと思います。ノートをとるというのは、授業中にノートをとることです。黒板に書いてあることとか、先生が言ったこととかを書き留めておく。でも、授業中に使うノートはとる、でいいと思います。極端な話、必要な情報が書いてあれば、きれいにまとまっている必要は、僕はないと思います。

例えば、啓林館の10ページの部分に書いてあるのは、問題に取り組む段階で、先ほど数学の勉強、概ね3段階で言いましたけれども、理解する部分と確認する部分と、それからスキルアップの部分。どれも大事ですけども、スキルアップに自分で取り組む、自学自習の部分が何となくここに書いてある感じがしますけれども、問題に取り組むときのある意味スキルというのものもあるわけですね。それまでに学んだことを知識として理解するというだけでは、うまく問題解決につながらないということで、どうやったらこれまでの知識を生かして、問題解決につなげることができるかという、そういう問題解決のスキルのようなものもあってしかるべきです。そういうふうに考えると、例えば問題を見たときに、何をすればいいかという、例えば問題で問われていることは何かということをしっかり意識する。それで使えること。いろいろな計算、法則とか、例えば方程式の場合だったら、まず何をXと置きますかとか。

実際の問題の解答に取りかかる前に、まずその問題を見て、何をするかということです。そういうこともとても重要な数学で学ぶべきことだと思います。そういう点でのノート、これはノートをとるのではなくて、つくるですね、そちらは。ノートのつくり方も、ノートを活用して、つまりよく言うのですけれども、手を動かし手で考えるというようなことですね。頭の中だけで考えて、解答が思い浮かんで、いきなり答えが出てくるわけではなくて、問題ごとにそれなりに個性があるから、まずその問題の特徴をとらえて、どういうふうに取り組んでいけばいいかということを考えなければいけません。それは頭の中だけでできるわけではなく、ものすごくたくさん練習して慣れたら頭の中ですらすらできるようになるかもしれない。初めからそういうわけではないので、最初は紙に書いてやる、場合によっては計算用紙にやって、終わったら捨てちゃうかもしれませんが、もったいないから後々の役に立てるために、ノートを用意しておく。

だから、僕はノートは3つ要ると言ったのは、授業でとるノート、それから問題解決するためにノートを使って考えるという意味でのノートとそれから最後まとめる、しっかり定着させて透明な理解につなげるためにまとめるノート、3つぐらいあっていいと思います。

3つも学校に持っていくのは大変だから、1冊で済ませる子がいたとしてもいいかと思いますが、そのときどきでノートのつくり方は当然変わってくると思うので、そういう目で見ると、結果きれいにまとまっていて、とてもよさそうなノートに見えても、そのときどきの学習目標にあったノートづくりになっているかという、僕には必ずしもそういうふうに見えません。

○中込数学科委員長 とても難しい質問ですけれども、確かに考えをまた巡らせてという、そういうノートであるとか、それを更にまとめるということは、今お話があったように、3段階あるかなというところはそのとおりだと思います。

大体、重たくなるので、1冊にまとめてやっているところですが、子どもたちもとてもいろいろ工夫しながら、例えば自分で練習をするときには、そのままなぐり書きみたいな形にして、どんどん解いていったりしています。しかしながら、例えば方程式であれば、左辺と右辺がどんなふうに変化していったかと分かるように、項を全部縦に揃えなければいけないという、そういう基本的なところは守らせつつ、後で間違ったところがどこの段階で間違ったかということが分かるように、そういったところで授業を進めています。

ですから、お話があったように、課題学習のところでは、いろいろ思考を巡らせる上ではなぐり書きをしたり、いろいろな方法を考えたりということが必要かなと思っているところ

ですけれども、課題学習は時間数がたくさん取れないので、幾つかのところの単元が終わったところぐらいで指導している、そういう形です。

それぞれの教科書のところでは、例えば教育出版、1年生の7ページのところでも、ノート工夫というように、こういうふうに書きなさいというのではなくて、ほとんどすべての教科書会社ではノートをこのように工夫するという表記で書かれています。ただ、中身については、子どもたちが自分の字体で書いたものと、印刷されているものというのがあるので、その辺の印象は随分違うかなと思っています。

○松尾委員 各者ノートを工夫するよにということを書いてありますけれども、東京書籍のものについては、そのノートの全体像を載せていて、何となくこういうふうにならなければいけないという印象がなくもないですね。

やはりこれを見ると、ノートの工夫といっても、ノートのとり方を工夫しているという感じになっているので、ノートを使って物事を考えていくという、そういう立場でノートづくりについて書いてある会社は今見た中では見当たらないですね。最近では数学がどんなことに役に立つかということをも身近なところであげて、生徒に理解してもらおうというところがあります。でもやはり数学そのものが分かるというのが一番大事だと思うし、その結果、問題が解けるということ、それが学ぶ喜びだし、勉強して楽しい、面白い、わかった、そういう素朴な気持ちというのが、勉強する最大の原動力ではないかと思います。

ですから、そういうところに力を入れて、うまく子どもたちを指導できるような、そんな教科書がいいなと僕は思いますけれども、いかがでしょうか。

○中込数学科委員長 今、お話があったように、子どもたちがどのように考えたかというノートの作り方というのは、どこの教科書会社にも載ってないと思います。こういうふうにしてノートをとらましようという形が載っているだけなので、実際に授業の中では子どもたちがいろいろ工夫したノートを実際につくっているの、それをそのまま実物投影機で前に示して、こういう使い方があるとか。こういうふうにならしているノートがあるという紹介をそれぞれの学校でしています。そうするとこういう工夫の仕方もあるのだということで、また広がっていく、また途中の式もそれぞれの子供たちがやっているものは、そのまま実物投影機で見られますので、そういった途中計算とか考え方というのも発表しながら進めているところなんです。

○松尾委員 実物投影機を使ってという指導をぜひ有効に使ってほしいと思います。すごくいい使い方ができると思います。そのときにきまりに従ってやっているかどうかで、○とか×

とかではなくて、筋が通っていて、これでちゃんと解けているよねということが納得できるような、そんな指導になるといいと思います。

ぜひ工夫していただきたいし、そういった工夫になるような教科書をぜひ選んでいきたいものだと思います。

○**今野委員** 学校評価の中でも幾つかのことについて、実生活との結びつき、社会との関連や、生活での利用について配慮されてつくられている教科書があるということで評価されている部分もあります。特に苦手な子については、身近な生活との関連の中で問題が考えられるというのは、導入だけなのかもしれませんが、とても勉強する上では有効だと思います。今回の教科書の中でそういう観点からよく考えられているなという問題の出し方、こんなものがありましたというのが幾つかあれば教えていただきたいと思います。

特に、そういう面で工夫が一番大きいのはどこだというのがあれば、それも教えてください。

○**中込数学科委員長** まず、導入部分でいろいろ工夫されていて、社会生活に密着している、また、どのようなものが社会で生かされていくのかというところの題材として、導入部分ではどこの教科書会社も利用しているところです。例えば一つ一つの問題では、東京書籍の1年生のところ、章末問題のところ、49ページ、これは正の数、負の数のところですけども、A問題、B問題の後に活用の問題ということで、こういった形ですべての単元の章の終わりのところに活用の問題が載っています。こういうところで身近な今まで勉強してきたことをまた少し膨らませていっているところかなと思います。

または、学校図書、これも1年生で同じようなところを見ていただいたほうがいいと思うので、例えば1年生の58ページ、正の数、負の数のまとめの問題で、ソーラーパネルを設置するという、電気料の問題です。このように正の問題の後に、毎回身近な問題を取り上げているところがあります。

例えば、啓林館の1年生を見ていただけますでしょうか。同じところで52ページのところ、これは数学的な考え方になってきますが、千思万考という、毎回、章の問題の後にすべての単元で載っています。こういったところで今までのところを少し発展させたところです。

社会的なところでは、53ページのところ、琵琶湖の水位ということで載っており、いろいろな工夫がされています。また、それぞれの教科書の最後の付録のところには、それぞれ例えば数学の歴史、身近なものから数学を考える、数学の広場的なところのものがそれぞれ載っているという状況でございます。

○古笛委員 私は文系の人間なので、数学が得意ではないのでその観点からの質問です。子どもに数学とか算数を教えてと言われたときに、答えは出るのですが、その過程、なぜその答えに到達するかというのがなかなかうまく教えられない。同じ教科書を使っている、子どもたちも分かりやすい先生と、正直に言うと分かりにくい先生とがあるというのは、何が違うのかと。なかなか難しいけれども、そういった観点を踏まえた上で、それぞれの教科書はカラフルできれいでいろいろ工夫されていて面白いと思いますけれども、先生方が教科書を使って指導するときに、使いやすい教科書と使いにくいというか、特に、ベテランの先生方というよりはむしろ若い先生がこれからの指導力をつけていくために使いやすい教科書というのはこういう点だということがあれば教えていただけたらと思います。

○中込数学科委員長 幾つか具体的にお示したほうがいいかなと思うので、例えば東京書籍、1年生87ページ、先ほどお話をしたように、例えば例題2、その下が、たしかめというようになっています、問3です。

また例題で同じような問題がたしかめ、それで問4、問5という、こういったパターンが全部にわたっています。その次のページを見ていただいても分かるように、88ページ、例題1、そして右側でたしかめ、問2。例題2、たしかめ、問3というように、1回やって同じような問題を確かめて、そして問をとというのはパターン化して、とても分かりやすくできていると思っています。

同じようなのは、教育出版の45ページ、全く同じような形で、例題2、たしかめ、問1。その下はクエスチョンになっていますけれども、たしかめ、問2という、こういうパターンでいくと、1つ同じような例題を練習して、そして問に結びついていくというような形になっているので、とても分かりやすく工夫されていると思っています。

○羽原委員長 ほかにございませんか。

ほかに特にご質問等がございませんので、中込数学科委員長、ありがとうございました。

次に、英語について、学習指導要領の中での目標、教科の特性等々、調査の内容、その他評価を決定する上での主な議論などについて、ご説明ください。

東委員長、よろしくお願いたします。

○東外国語科委員長 外国語科調査委員会委員長の四谷中学校の東でございます。よろしくお願いたします。

それでは、中学校の学習指導要領をもとにしまして、外国語の目標について述べさせていただきます。外国語として、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーション

を図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなど、コミュニケーション能力を養う。

改訂の要点としましては、3項目改善点がございます。1つ目は、目標の改善で3点ございます。外国語を通して、言語や文化に対する理解を深める。外国語を通して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。

また、小学校に外国語活動が導入され、特に、音声面を中心として外国語を用いたコミュニケーション能力の素地が育成されることを踏まえ、中学校段階では聞くこと、話すことに加え、読むこと、書くことを明示することで小学校における外国語活動で育まれた素地の上に、これら4つの技能を総合的に育成することとしております。

2つ目は、内容の改善です。これは、4点ございます。1点目、聞くことにおいては、まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取ることが追加されました。2点目、話すことにおいては、与えられたテーマについて、簡単なスピーチをすることが追加されました。3点目、読むことにおいては、話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり、賛否やその理由を示したりすることができるよう、書かれた内容や考え方などが追加されました。4点目、書くことにおいては、語と語とのつながりなどに注意して、正しく文を書くこと。自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこととされています。

3つ目は、指導計画の作成と内容の取扱いの改善についてです。小学校における外国語活動との関連に留意して、指導計画を適切に作成するとしてあります。

教科の特性は、3項目ございます。1項目が外国語の文法、規則や語彙についての知識をもっているだけでなく、実際のコミュニケーションを目的として外国語を運用することができるようにする。2項目は、外国語教育における中学校段階では、音声によるコミュニケーション能力を重視する。3項目は、外国語を通して、言語や文化に対する理解を深め、コミュニケーションへの積極的態度を育成する。

続きまして、各発行者の特徴でございます。全部で6者でございます。

内容の選択、構成・分量、表記・表現、使用上の便宜について、それぞれ特徴を申し上げます。なお、調査委員会では、本区の実態に合っているかどうか、本区の実態というのは、学力の部分、ICTの機器の充実、小中連携、この3点も加味して、総合的に評価させていただきました。

まず、東京書籍です。生徒の実態に合わせ、基礎から発展レベルまで指導ができるようになっている。2点目、やさしい題材から考えさせる題材まで無理なく配置されている。3点目、小中連携を踏まえた内容になっている。4点目、4技能を総合的に伸ばす言語活動を3年間に配置し、基礎・基本の定着から発展的な学習まで可能であること。5点目、写真、色使いが丁寧なイラスト、文型図を多くに配置し、紙面構成に生かしているので生徒の意欲を高め、理解を深めるICT機器活用に適している。6点目、教師の指導の工夫を生かせるということです。

細かく話題になった点を申し上げます。1年生の冒頭のところです。東京書籍ですが、Hi, English!というところから始まっています。Unit0まで、ページ数では4ページから21ページまでですが、小学校の復習も兼ね、連続させていくという復習の面を取り上げています。

授業では、小学校でHi, Friends!をもとにALTの活動で触れてきた英語に近い内容のため、小学校での英語の活動を思い出させながら、新しい学習につなげることができるようになっています。総合評価は調査委員会ではAとしました。

2点目、三省堂でございます。効果的な絵や写真の使用や様々な題材の選定など、生徒の興味、関心を高めながら、英語学習を進められるように工夫がされています。2点目ですけれども、生徒のよい技能を総合的に高めるように言語活動を用意し、それに数多くの語彙を各ページのワードバンクや巻末資料で取り上げています。

話題になった点ですが、1年生の冒頭、Get Readyは小学校で学んだことと、中学校英語との円滑な接続を意図しております。先ほどの東書と似ておりますが、ページ数でいきますと6ページから19ページになります。

授業では小学校で学んだ学習内容を思い出しながら、新しい学習につなげることができるのではないかと。また、1年生の教科書86ページと123ページをごらんください。For Self-studyのコーナーが設けられ、生徒の自主的な学習を促す構成となっています。授業では生徒の自主的な学習を促すことができるのではないかととらえました。総合評価はBとしました。

次に開隆堂です。1点目、職場体験など題材の選び方や場面設定を工夫したものになっている。2点目、4技能を総合的に身に付けているように、段階を踏んだ指導を促すつくりとなっている。3点目、写真や巻末資料の充実に工夫がされている。

開隆堂のほうは、1年生の教科書になりますが、23ページをお開きください。1年生のプログラム1の後に、辞書を引いてみようというのがあります。辞書の初歩的な扱い方に慣れ、

必要に応じて活用できるようになっています。

授業では自己表現活動を自主的に行わせたり、家庭学習などに持続的に取り組んだりする上で、辞書の活用を進めていくことができるということです。総合評価はBといたしました。

続きまして、学校図書です。1点目です。生徒にとって興味、関心を高める題材。おせちや書き初め、相撲部屋、世界遺産などを多く扱っている。2点目、3年生では給食とお弁当、ペットなら犬、猫など中学生が意見を言いやすいテーマを与え、ディベートなどの言語活動ができるように配慮されている。

1年生の教科書になりますが、19ページ、46ページをお開きください。各チャプター1の扉の後に、レッスンと各コーナーの内容や言語材料、目標が明記されており、生徒が学習の見通しを立てることができる。

授業ではこのチャプターを学習することで、このようなことができるようになるという具体的な目標が掲げられていることで、生徒の学習意欲を高めることができるのではないかと、ということで、同じく総合評価をBとさせていただきました。

続きまして、光村です。1点目、Unitの構成がページ見開きで新出の文構造の提示と聞き取り、学習内容の活用、そして発展的な活動へと進むように工夫されています。2点目、4技能を伸ばす言語活動の量のバランスがとれている。3点目、写真やイラストを効果的に使い、生徒の関心を高める工夫や発話の場面や文脈を大切に、生徒が英語の自然な使用場面に触れられるような配慮もされている。

続きまして、話題になったことですが、1年生の教科書88ページ、他教科の内容を英語で学習することができるように工夫されています。授業では生徒の知的好奇心を喚起し、学習の幅を広げることができるようになっている。ということで、同じく総合評価をBといたしました。

最後になりますが、教育出版です。1点目、イラストや写真を多用し、生徒の興味、関心を高める工夫をしている。2点目、様々な言語活動を取り入れ、文法事項や語彙など、基礎・基本の定着を目指した工夫がなされている。

話題になったこととしては、1年生の教科書の別冊になりますが、Essentialsでは、プラスダイアログ、プラスアクティビティなどが設けられており、生徒に基礎的、基本的な内容の確実な定着を図ることができる。これは、各学年Essentialsがございます。総合的な評価はCといたしました。

以上で、6者についての特徴になります。以上でございます。

- 羽原委員長 説明が終わりました。ご質問、ご意見等ございましたらどうぞ。
- 今野委員 東書の評価の中で、文型の提示の仕方がICTの活用に適しているということでしたけれども、これは具体的にはどんなことでしょうか。
- 東外国語科委員長 1年生の教科書の33ページをお開きください。基本文5という四角がございます。肯定文、疑問文という形で載せられています。これは語順が明確に、肯定文のisが疑問文になると前に出るということで、きちんと空白になっていて、移動したのが分かる表記になっております。これをICT機器に映すことによって、生徒にも視覚的に分かるという点が非常に指導しやすいということで取り上げさせていただきました。他者にはこういうところはみられませんでした。
- 今野委員 ICTで見ればよく分かるけれども、教科書でもよく分かりますよね。
それともう一つ、総合評価所見のところ、4技能それぞれを伸ばす活動に加えて、4技能を総合的に伸ばす言語活動が3年間に配置されているとありますが、例えば、どんなところを見ればいいのでしょうか。
- 東外国語科委員長 今、ごらんいただいている32ページ、33ページのパート2、Unit2で説明します。このページをとりましても、きちんこの文の案内があって、次に右手にこういう活用ができるというところ、疑問形にする、また電子教科書を使って、それをまた聞いて学ぶ。今回、新たにSpeakというマイクのイラストが入っています。これでもって何を話すかというめあてもはっきりしてきます。その下に今度は書いてみるということで、実際に自分で書く欄が設けられています。これは東書の大きな特徴でもございます。他者には書くというところがあることはありますが、このUnitごとにあるということが特徴かなと思います。
- 古笛委員 それぞれの教科書の特に内容の点についてなんですけれども、調査委員会の評価でAのところとCのところに分かれていますけれども、その違い、内容でどういった点が違って、AとCの評価に分かれたのでしょうか。
- 東外国語科委員長 まず、AとBは同じというのは変ですが、そこまでの差がないという形でとらえています。ただ、教員によっては他区から来た場合、こういう教科書を使っていて使いやすいとか、そういう観点もあるため、Cは、使いやすさという点で、評価しているというのが多いととらえています。
- 羽原委員長 関連して、学校調査のほうでは、三省堂のほうが高評価が高い、つまり現場的に言うと、三省堂の教科書のほうが使いやすいということですが、東書のほうが全体としては

Aであると。この辺の使い勝手、現場的に見た場合と専門的な目を見た場合の違い、これはどう考えたらいいでしょうか。

○東外国語科委員長 両者ともいい点もたくさんございまして、東書が優れているのは、小学校の学びをしっかりと載せているというところや、単元ごとに書く欄が設けられているところです。先ほど申し上げました東書と三省堂の評価の違いは、AとBについては優れている、やや優れている、ということはそんなに差がないという中で、東書はAとBをあわせて9、三省堂はAとBをあわせて7というところで、東書のほうをとらせていただいたというところでございます。

○菊池委員 英語の教育が私のころと大きく様変わりしているので、非常に実践に役立つ英語教育になっていったのかなと思います。この教科書の使い方、先ほど小学校との連携ということで、最初の東書で言えば、20ページぐらいまでは小学校でやったことということですが、実際に、CDを聞かせる、そして話して、自分たちも発音させてみるのですか。具体的なイメージがわいてこないのですが、イントロダクションで小学校の復習をするというところから入っていくと接続の意味でいいと思います。

実際どんな感じで授業を進めていくのかが分かるとその教科書のよしあしが何となく見えてくるような気がいたします。

○東外国語科委員長 小学校の目標は、聞く、話すになります。ということで、とにかく聞いて、話していくという中では、簡単な会話をどんどん積み重ねていくとか、絵を見てすぐ発音することができるようになったり、そういう点でやさしく思い出させながら入っているという点では共通している部分かと思っております。

○羽原委員長 関連で、教科書と少し離れますが、フィリピンの子どもたちの英語は、身に付いた英語という感じです。だけど、日本の大学生の半分というか、あるいはもっと多いかもしれませんが、ほとんど日常的な英語も十分身に付かない。僕らのときは、文法と読む英語みたいな感じだったので、聞くことや話すことはあまり達者にできないまま今日に至っています。どうも英語教育の根本的な、教科書がいい、悪い以前の問題として、どこか英語教育の根幹が間違っているのではないか。文部科学省に盾つくわけじゃないけれども、何かもっと大きいところで英語教育、身に付く英語、つまり哲学書が読めるような英語でなくていい、気軽に海外に行って旅行ができる。お金があれば外国へ行って楽しんでこようというような、そういうレベルで英語が身に付く。このほうが僕はいい。いったん身に付けば、普通の国語教育などで受けたような理解力、知識水準とかが確保できれば、比較的どんどん本を読んで

も身に付くのではないかなと。

新年度から小学校にウエイトを置かれるし、中学校もいろいろな工夫があるけれども、何か少しも英語を活用する世代が伸びてないような。根幹に何か問題があるのではないかなというのが僕の印象で、少し教科書から離れますが、もし何か考え方がおありでしたら、東先生の個人的考えで構わないので、ぜひお話しいただければと思います。

○東外国語科委員長 個人的という、その前に、今の生徒の実態を少し申し上げたいと思います。昨年の都の学力調査、児童・生徒の学力向上をはかるための調査をしておりますけれども、昨年の調査ですと、いろいろデータ、見方はありますが、下位層が40%もいます。下位層というのは都の平均の5ポイント未満です。5ポイント未満の生徒が40%いるということで、これは英語が定着していない生徒がこんなにいるということがまず明確になってきています。これが新宿区の実態だということをお伝えしておきます。

この点を踏まえると、基礎・基本をもっとやらなければいけないということが浮き出てきます。そのような中で、東書のほうは基礎・基本がしっかりと押さえられているというところで、こちらのほうが相応しいのではないかなというところではあります。

三省堂のほうは、発展的で難しいところも入っていたりしておりますし、語彙が1,500ぐらいございます。東書のほうは1,400というところで、100違います。また先ほどありましたように、どうしても文法から入っていかなければならない部分。教員の子どもたちに迫る授業の形態もICTを使いながら、生徒にも興味、関心があるというところを話題にしながら行っています。また本区の特徴でもありますが、ALTを配置していただいています。ALTは大体9割ぐらい、年間180日ぐらいでしょうか、学校によって少し違いますけれども、ほとんどの英語の時間にはいるという形です。生の英語を聞きながら、また話をしながら、という形で今進めているところなので、まだこれについては結果が出てないというところですが、まず文法云々というところから使える、話せるということを重視しながらやっているということだと思っております。

○羽原委員長 小学校の英語の授業を見せてもらっていますが、子どもたちが一斉に発声する際に、やむなくぼそぼそとしゃべる子が多い。数は多くないですが、楽しそうにやっている子どもたちもいますが、英語を身に付けることの喜びや面白さが、授業や勉強の英語ということで削がれているのではないかなと。小学校から中学校に進むと、文法的英語になってきますが、国語と同じように、ごく普通に使えて、英語で何か考えたり、吸収したりという、その肝心な部分が欠けているのではないかなと。解決策があつて言っているのではなくて、

印象批評でありますから、先生に答えを求めているわけではないですが、何か大きく発想を転換しないと日本人の英語力というのは、実践的に大きく伸びないのではないかと、反省をしながら英語の教育について述べている次第です。

審議委員会の委員長の立場ではなくて、英語の教育に当たってきた先生として、何かおっしゃっていただければありがたいと思います。

○**東外国語科委員長** 教員の資質の問題もあろうと思っています。平成25年に英語の教育改革の実施計画というのが出されました。若手の教員の育成、あと英語で授業をするということの大々的に伝えられ、また研修も有意義な研修がなされていることも聞いています。また区内でも英語の研修会も頻繁にやっております。ということでは、やはり危機的に思っている教員、また、私たちもそういう形で進めていかねばと考えております。すぐ結論が出るかどうか答えが出ることはないかと思っていますけれども、地道にやっていくしかないかなと思っています。

○**羽原委員長** ほかには、ご意見、ご質問をどうぞ。

○**菊池委員** 委員長がおっしゃることに、答えになっているかどうか分かりませんが、自分の経験からしますと、日本人の本質的なシャイというか、内気な、自分を表現するとか、あまり多くをしゃべるのが得意ではないという国民性にまずあるのかなということが1つ。

もう一つは、シャイにつながるけれども、例えばウォーターですよね、水は。ところが、発音を聞いていますと、ウォラーですよね。tをほとんど発音しない。そういう発音をすることに対する恥ずかしさというか、思い切り口を歪めたり、舌を出したり、人前であまりそういう顔をするのに慣れてない、そういうことも背景にあるのかなと思います。

もちろん我々60歳以上の人たちは、This is a penから始まっているわけなので、これはもう全然、僕がちょっと海外に行ったときに全く役に立たずに、1年間は非常に辛い思いをしました。

挨拶ができるということがものすごく大事で、これは挨拶ができるようになっている。最低限の挨拶。レストランで自分の食べたいものがオーダーできないという日本人の特性、これは解除してくれるのではないかと。そういう方向性には一応向いているのではないかと、もう少し温かく見守って、この方向でやっていただければなと思っています。

○**羽原委員長** 教育長は何かご意見などありますか。

○**教育長** 東京書籍の3年生の教科書を見ても、1年生と同じように、言葉の順番を変えますという形の編集は変わってないように思います。これは1年生の導入のときは、isが前にき

ますよという話はいいにしても、2年生、3年生になってもこういう形で教えることが有効なのかという、そういう疑問がありますが、いかがでしょうか。

○東外国語科委員長 やはり基本ですから、何度も徹底していくということでは指導しやすいという、また生徒も分かるのではないかということで、とらえています。

○教育長 私が気にしているのは、ほかの教科書はそうになってないわけで、こういう教科書で学んだときに、高校に行って英語を勉強するときに、それがかえってハンディキャップにはならないのでしょうか。

○東外国語科委員長 やはり英語は語順でつまづくという生徒が多いという点、また発達障害の生徒もいるということ考えた場合には、一部の生徒ですが、そういうことを配慮していく中で徹底して、この形がいいかなととらえました。

○羽原委員長 ほかに特にはございませんか。

それでは、これで本日予定していた種目ごとの学習指導要領の中での目標、教科の特性等について、調査委員会における調査の内容、その他評価を決定する上での主な議論などについての質疑は終了します。

各教科の委員長、長い間の検討とまた本日お越しいただいてありがとうございます。

4時10分まで、15分ほど休憩したいと思います。4時10分から再開させていただきます。

午後 3時54分休憩

午後 4時10分再開

○羽原委員長 それでは、再開して協議を続けます。

各教科の調査委員会における調査についての質疑は終了しましたので、ただいまから教科用図書審議委員会の調査結果について審議委員会委員から種目ごとに説明を受け、質疑を行い、採択の対象となる教科用図書の候補の絞り込みを行います。

それでは、まず国語について教科用図書審議委員会ではどのような審議、検討が行われたのかご説明ください。

○中野審議委員 それでは、私のほうからご説明を申し上げます。

まず、国語ですが、学校調査の結果についてです。最もA評価が多かったのは光村で、10校中6校がA評価でした。調査委員会の調査結果は、三省堂、光村が総合評価でAでした。

審議委員会では、光村をA評価といたしました。その理由、意見として読むことの単元末の学習にはその目標にそった課題が段階別に示してあり、生徒の主体的な学習を促すものと

なっている。

また、話す、聞く、活動の単元などでは学習の見通しを示すとともに、相手や目的を意識しながら学習に取り組めるよう工夫されている等の意見があがりました。また、審議委員会では他者に関する意見として、東書については教科書の冒頭に四季を彩る言葉を掲載したり、四季の移り変わりを感じさせる写真や詩歌を章ごとに示したりして、感情や情緒を大切にしている。

学図については、文法の学習では、日常生活の場面を取り上げ、学習内容と言語生活とのつながりを考えさせることができる。三省堂については、即興劇にチャレンジ等、各学年に劇を取れ入れた言語活動が示されており、楽しみながら生徒の話す、聞く能力を高める工夫がされている。

教出については、みちしるべ、ここが大事などは生徒の自主的な学習を促しやすいなどのよい点があげられました。

最終的に審議委員会として、学校調査、調査委員会調査の報告等を踏まえ、教科書を確認しながら総合的に判断した結果、学校評価でA評価が最も多く、調査委員会評価でA評価であった光村をAと評価いたしました。以上でございます。

○羽原委員長 説明が終わりました。ご意見等ございましたら、どうぞ。

特に、ご発言がないようですので、採択に最もふさわしいと考えられる教科用図書について、各委員のご意見を確認したいと思います。

では、菊池委員から、よろしくお願いします。

○菊池委員 私は光村図書を推薦したいと思います。といいますのは、最初の13ページのスタートですけれども、言葉に出会うためにというこのフレーズがまず素晴らしいと思いました。国語は、僕はあまり得意ではなかったけれども、この教科書なら国語が好きになりそうだという、まずこのイントロダクションに非常に魅了されました。

次に詩がたくさん出てきます。そして、その後の学びを開くという、いろいろな言葉に触れながら、学習の見通しをという、この表現もとてもいいと思いました。この26ページの『花曇りの向こう』という、瀬尾さんという方、この教科書のために書き下ろした小説が、転校生で、なおかつ初めて中学校に上がった男の子の心境を非常に切なく、日常のことから非常にうまく表現していて、この中学校1年生の男の子の感情、子どもたちが学ぶ上で感情移入しやすいのかなと、非常に共感しました。

先ほど書写のときにも少しコメントいたしましたけれども、季節のしおり、春、夏、秋、

冬とあります。そこに名画が載っているし、下にいろいろな面白い詩のようなものがあり、その間に先生が教えやすいように、あるいは自分が家に帰って自学自習ができるように、非常に丁寧に分かりやすく書いてくれているなどと思います。

新しい視点、大根はこういうものだというのは、これは科学にも通じます。大根はこういうものだと初めて知りました。視点の違いです。びっくり箱ではないですけども、見方によって見え方が違うということ。その後の小説で言葉をつなぐというところに入っていき、詩の世界があります。あとは『空を見上げて』という、震災を題材とした5、7、5から、世界が反応して、7、7をつけるとか、非常に情緒に訴える感性を、そういう痛みを共有できるような、希望を持つという中学校1年生の子どもたちにとって優れたものを取り上げているなどと思います。

もう一つ、93ページに個人的に非常に好きな宮崎駿さんのコメントがあります。『注文の多い料理店』、イーハトーヴ童話集、このコメントが非常によくて、子どもたちがこういうものを読んでもくれるといいなどと思いました。

そして、この4、つながりの中でというところでは、中学校1年生の女の子が主役の心情をうたった、やはりこれも書き下ろしの短編小説があります。中学校1年生の男の子と対になってバランスがよくなっているなど。これも非常にこの女の子の心情が非常にうまく書けているなどと思いました。

あとは、恐らくヘルマン・ヘッセのものは共通題材でありますし、ほかと比べて、古文とかが出てくるタイミングもいいなどと思います。最初からあまり、古文が最初のほうに出てしまうのはちょっと唐突かなという感じで、十分に国語になじんだ後に古文とか、難しいヘルマン・ヘッセ、『坊ちゃん』が載っているのもいいなどと思いました。新宿ですから。

あと字が大きくて読みやすく、非常にこの教科書に引き込まれて、没頭するように読ませていただきました。子どもたちにも恐らく同じような感覚で取り組んでもらえる教科書ではないかと思ひまして推薦したいと思います。

○**今野委員** 国語は学校が光村A、調査委員会は三省堂と光村がA、それで審議委員会のほうでは光村がAということになっておりますので、私も審議委員会の意見どおり光村がいいという結論を持ちました。

光村の場合には、評価のほうにもありましたけれども、子どもたちに考えさせるときに、課題を段階的に示しているということで、とても勉強しやすいのではないかと思いました。

三省堂ですけども、特徴的なところで以前にもご説明がありましたけれども、即興劇だ

とか、対話劇だとか、ワールドカフェというような相手に応じて様々に対話しよう、発言しやすくする上では、非常にいい試みで、チャレンジングなものだなと思いました。ここでどう評価するかということで、いろいろ専門家のお考えもあると思います。話をする上ではとてもいい試みだと思いますけれども、発言するときには的確な内容を的確に筋道立てて話すということが学校で勉強するときには先に重要な要素ではないかなと思います。どちらかというと光村のほうのスピーチを中心とした構成のほうが従来型かもしれませんが、教科書の内容としては適正ではないかと。

ただ、即興的にいろいろ話をするということについても、十分必要性があるわけで、これをこなすためにこういう指導が必要だということが学校のほうで考えられるような条件が整ってくれば、それはそれで新しい試みになるのではないかという感想を持ちました。

総合的に考えて、光村がいいのではないかというのが結論でございます。以上でございます。

○松尾委員 国語に関しましては、学校調査では光村が最もよいということで、それから調査委員会の調査では、三省堂と光村ということで、三省堂と光村が比較的甲乙つけがたいような状況にありますので、特に2者について詳しく見てみました。簡単に申しますと光村のほう非常にオーソドックスな教科書になっておりました。三省堂のほうは意欲的な新しい試み、光村にあるようなオーソドックスな手法とは違うという意味で新しい手法があるというように思います。ですから、意欲的な先生ですと、三省堂の教科書で、ぜひこれにチャレンジしてみたいと思う意欲をかきたてられるような面が三省堂にはあるように思いました。しかし、新宿区の場合、やはり若い先生、経験の浅い先生が多いということで、新しいやり方にチャレンジしてうまくできるかという、できるかもしれませんが、難しいのではないかなという印象があります。

若い先生ですから、なおのことチャレンジしてほしいという気持ちもなくはないですが、でも子どもの立場に立ってみれば、やはり学ぶべきことをしっかり教えてくれる授業のほうを望みたいと私は思いました。

もし三省堂の教科書を採用するとすれば、これはやはり事前に相当綿密に準備して新宿区独自の研修等も行った上でやっていかないと、やはり現場に混乱が起きるのではないかと。少し心配に思います。そういったわけで、私は今回、この教科書につきましては、光村の教科書を推したいと思います。

○古笛委員 私も結論として光村です。確かに、現場でも審議委員会でも、調査委員会でもA

評価がなされているということと、私自身全部読ませていただいたときに、各委員から出ていますが、一番オーソドックスというか、安定しているというか慣れ親しんでいる感覚の教科書だなと感じました。

三省堂も確かに面白いなというところで、立ち位置というか視点が新しいという気がしますけれども、もしかしたらなかなか難しいと感じる子どもたちもいるかもしれないなということで、教科書としては光村でいいと思いました。

○**教育長** 私も結論は光村を推したいと思います。各委員の方々から出ていますけれども、学習のまとめのところで読みを深めよう、そして自分の考え方を持とうということが、3年間変わらず出てきていて、こういうことが続いてくると物事を考えるきっかけとしての訓練がよくできるのではないかと思います。

見やすいですよ、構成もあっちこっち飛んでなくて見やすい。それから、一番後ろの色がいいですよ。昔の日本の言葉、その色がそれぞれ青系統というのが3年間にわたって出てきて、これ自分で調べようと思ってもなかなか大変なことだなと思います。こういうことの中で古典とか、古い大和言葉だとか、そういうことに対する興味を子どもたちがもってくれたら、これもまた意図しているか、してないかはともかくも、いい効果を生むのではないかなと思いました。光村を推したいと思います。以上でございます。

○**羽原委員長** 全体の教科書で見ていくと、やはり三省堂、光村が全体の雰囲気としていいかと。三省堂と光村でどうかというと、五分五分の感じで、これはあと先生がどういう授業に持ち込むか、授業の持ち込み方によってどちらでもいいという総体の印象です。

教科書本体で言いますと、光村の140ページからのいにしえ、つまり古文から漢文への流れ、あるいは三省堂の99ページからの古典に学ぶ。同じような部分を見てみると、どちらも非常にいいなと思います。例えば、三省堂でいうと、月を思う心、月々に月見る月は多けれど云々という、これで月を題材にして『竹取物語』に入っていく。それから、光村のほうは、いろは歌から月に思うという2ステップを踏んで、『竹取物語』に入っています。なかなかしゃれた運びになっている。つまり少しずつ『竹取物語』に入っていく準備意識の感覚を、月をテーマにすることによって近づいている。この辺、どちらも古文にいいなと思っています。

月に思うというところは、光村のほうは正攻法だなと思いますし、三省堂のほうは、古文としてはもう少し古文を長めにとったほうがいい。古文を学ぶには少し短すぎないかと、時間の配分の問題もあるでしょうが、もう少し多いほうがいい。

それから、このチャプターの終わりのほうに、漢文を読むというところがあり、これは三省堂のほうの方が丁寧で分かりやすい。光村のほうは、白文がどういうものかとか、もう少し親切であってもいいのではないかと思います。漢文を学ぶには、中学校1年生では難しいが、こういうものだという概念像だけでもてばいいぐらいだけれども、三省堂のほうがいいかなという感じがしました。

それから、どちらもヘッセを使って、『少年の日の思い出』とありますが、この点は光村は、とらえ方が自分を見つめて、子どもたちの自分の立場に結びつけた取り上げ方、教え方をリードしていこうという感じです。

それに対して、三省堂のほうは読みを深め合う、結果的には同じことではしょうが、やはり自分に引きつけて、小説を感じる。というところでは、光村かなと。学習の窓、目標の設定、あるいは漢字の部分とか、なかなか工夫があるなという印象を持ちました。

光村の240ページと三省堂の216ページの文法についてですが、これは光村のほうの説明や事例など分かりやすいなど。動詞の活用なども、どこで動詞の活用形を学ぶのか分からないが、この触れ方はいいのではないかなと思いました。

光村の219ページの表現技法、それから三省堂の言葉発見の4、199ページでしょうか、この辺の表現の技法というのは似たようになっていますが、光村のほうの方が分かりやすい事例の挙げ方で、教えやすいのではないかなという感じがしました。

それから、三省堂は手塚治虫のマンガと文章を使っています。178ページですね。これは子どもたちにとっては、関心のある手塚治虫だし、この絵から何をくみ取るかというのは情緒性においても使えるなという感じがしました。

しかし、2冊一緒に使えばいいというわけにもいきませんので、幾分光村という、本当に49対51、もっと近いかもしれないぐらいにどちらもいいと思いましたが、光村を推したいと思います。

特になければ、今までの協議内容の確認をしたいと思います。国語については本日審議した中で、科目の特性、審議委員会の調査結果を踏まえ、皆様の総意として光村図書の国語を採択の対象となる教科用図書の候補にするということによろしいでしょうか。

〔異議なしの発言〕

○羽原委員長 では、そのように進めたいと思います。

次に、書写について、教科用図書審議委員会ではどのような審議、検討が行われたのか説明をお願いします。

○中野審議委員 それでは、書写について、ご説明申し上げます。まず、学校調査の結果についてです。

最もA評価が多かったのが、光村で10校中5校がA評価でした。調査委員会調査の結果としては、光村が総合評価でAでした。

審議委員会では、光村をA評価としました。その理由、意見として、手紙や送り状、原稿用紙の使い方など実生活とのつながりを大切にされた資料が多く、また留意点の解説も丁寧である。また、毛筆で俳句を取り扱うなど、多様な題材が準備されている。などが意見としてあがりました。

また、審議委員会では、他者に関する意見として、東書については、自分で選んだ言葉を書体、用紙、配列等を考えて作品づくりを行う単元は生徒の意欲を高めることができる。学図では、手本や解説の分量が適切であり、簡潔にまとめられ扱いやすい。三省堂については、筆や鉛筆の正しい持ち方について、同じページに写真が掲載されており比較しやすい。教出については著名な作家の現行などを掲載することは、生徒に手書きの文字のもつ味わいなどについて考えさせることができる。などがよい点としてあげられました。

最終的に審議委員会として、学校調査、調査委員会調査の報告等を踏まえ、教科書を確認しながら、総合的に判断した結果、学校評価でA評価が最も多く、調査委員会調査でA評価であった光村をAと評価いたしました。以上でございます。

○羽原委員長 それでは、ご意見、ご質問等ご発言がありましたら、どうぞ。

○松尾委員 新宿区のICTを活用して授業を行うという場合に、何らかの違いというものがありますか。

○中野審議委員 審議委員会の審議では、このICTの活用ということについて、確かにお手本として示すということで、扱いやすいということがありましたけれども、どの者の教科書でそれが優れているかというところは特に出ませんでした。

○羽原委員長 ほかによろしいでしょうか。

それでは、採択に最もふさわしいと考える教科用図書について、各委員のご意見を確認したいと思います。

教育長から、お願いします。

○教育長 結論から言って、光村を推したいと思います。調査委員会、学校調査も光村ということですし、先ほど調査委員長から時間数のことが出ていて、書き初めをすると、書写で時間が使えない。そうなってくると資料の部分が充実していることが、本当に自分がこの教科

書を使って、3年間学んでいけるということで、後々書写ということ学んだことが自分の中で生きてくるのかなと思ひまして、光村を推したいと思ひます。

○古笛委員 私も、光村でよろしいのではないかと思ひました。今、教育長がおっしゃったとおり、資料の部分がものすごく役に立つと感じました。それから、国語との連動という意味でも興味をもつということで、同じような題材も出てきましたので、光村でいいと思ひます。

○松尾委員 私も光村がよいと思ひます。書写に関して、学校調査でも調査委員会の調査でも光村がともに優れているという評価でした。特に、学校評価、光村が高く評価されているということで、使いやすい教科書だろうと思ひました。実際、書写の場合、実習に使うという側面がございますので、特に使いやすいという点を高く評価して、光村がよいと思ひます。

そのほか、この後ろに光村は常用漢字一覧表のところで、2種類の字体がありまして、非常に参考になって、自分が書きたい文字をこの中から探して書くことができるというところがとても便利につくりになっています。これはきっと中学校3年間だけではなくて、その後取っておいたら末永く使える、一生使えるかもしれない、そんな教科書になっていると思ひました。

○今野委員 現場、調査委員会、審議委員会、すべて光村ということで私も光村がいいと思ひました。理由は、再三皆さんから指摘されているように、特に資料のところで、様々な書き物についての書き方、手紙、はがき、入学願書、のし紙、情報を集めて整理をするということで、書くことについて体系的にまとめられていますので、とてもいいと思ひました。

ほかの教科書でも幾つかのものについて本文で取り上げているところが随分ありますけれども、むしろこういう形で、全部をまとめて指導がなされた形で示されるというのは自学自習の面でもとてもいいのではないかと思ひました。光村を推したいと思ひます。

○菊池委員 私も光村でよいと思ひます。先ほどの国語と連動しているのかなと思ひますが、この見開きの文字と出会う、自分の文字を見つめてみようというこのくだり、文字に対する興味を持つ、文字をきれいに書きたいという気を起こさせるというか、そして教え方に関しては非常に簡明に分かりやすく書いてあるので、あまり無駄なことが書いてなくて、先生も教えやすいのかなというのが1つです。

そして、国語の教科書とリンクしているなというのは、かなです、「いろはにほへとちりぬるをわかよたれそつねならむ」、この部分、これが教科書とリンクしていて、光村を国語の教科書で採用するに当たってはリンクして、分かりやすいと思ひます。

そして、皆さんおっしゃったように、最後のところ、これを知っていると本当に役に立ち

ます。こういうふうに書くと恥をかかないということを教えてもらえて、これを持っていれば安心できます。英語の住所の書き方まで書いてありますし。

文字のつくり、どうやってできたかというのを光村も簡単に書いてありますが、一方で東書のほうもそれについてはかなり魅力的な書き方をしてあります。習字の達人である東書の106ページ、唐の四大家と呼ばれる優れた書き手の文字をなぞって比較しようというものです。これはすごくワクワクするようなもので、これを見ると字というものに対して関心をもつのではないかなと、お子さんたちは、感動すると思います。左側のページも芸術性が高いなと思うし、漢字の成り立ち、その前のページについても非常にこれは私が好きな部分です。中国でどうやって漢字が生まれたかを書いてあるので、ここはかなり捨てがたい部分があります。トータルで、やはり光村を推したいと思います。

○羽原委員長 書写というと習字のイメージが強かった。僕だけかもしれませんが。でも、随分教科書自体が多様化して、少ない時間の中で、習字よりもより現実的に使える部分への教科書の取り上げ方になったというのが率直な印象です。

習字は、非常に大事だけれども、これは国語の先生が、習字が必ずしもきちんとできるとは限らないので、教科書のお手本的なものがあればいいが、実際、授業では模範は見るけれども、実際には書く作業とテキストとは別だろうと思います。

とすれば、座学的に言えば、こういう豊富な資料がある教科書というのは、いいなと思います。それぞれ特性もあっていいと思いますが、現場で使いやすいということが光村ですので、僕も光村に同調したいと思います。

それでは、ここで今までの協議内容の確認をしたいと思います。

書写について、本日審議した中で、科目の特性、審議委員会の調査結果を踏まえ、皆様の総意として、光村図書の中学書写を採択の対象となる教科用図書の候補とするということによってよろしいでしょうか。

〔異議なしの発言〕

○羽原委員長 それでは、そのように進めていきたいと思います。

次に、数学について、教科用図書審議委員会では、どのような審議、検討が行われたのか、ご説明をお願いいたします。

中野審議委員。

○中野審議委員 それでは、私から数学についてご説明申し上げます。

まず、学校調査の結果について、最もA評価が多かったのが、東書と啓林館で、10校中4

校がA評価でした。

また、調査委員会調査の結果については、東書、啓林館、日文が総合評価でAでした。審議委員会では東書をA評価といたしました。その理由、意見として例題と問の間にたしかめがあり、段階を踏んで学習できるようになっている。また、関連ページの明示、課題やポイントの明確化、既習事項の確認、間違い例などの側注が充実している等の意見があがりました。

また、審議委員会では他者に関する意見として、大日本については、社会生活と数学とのかかわりを紹介し、数学に関する興味、関心を高める工夫がある。学図については、ノートの使い方やレポートの作成方法などが示されており、学習の参考となる。教出については、単元の導入に関連した単元の復習ページが記されており、既習事項の確認がしやすい。啓林館については、各章の基本のたしかめの側注には、確認の呼びかけと振り返りの範囲が設問ごとに示されている。数研については、教科書の冒頭に出発前のクイックチャージが設けられており、既習事項の確認を行うことができる。日文については巻末の数学マイトライには基本問題から発展問題、特に活用に関する問題が充実している、などのよい点があげられました。

最終的に審議委員会として、学校調査、調査委員会調査の報告等を踏まえ、教科書を確認しながら総合的に判断した結果、学校評価でA評価が最も多く、調査委員会調査でA評価であった東書をAと評価いたしました。以上でございます。

○羽原委員長 何かご質問はございますか。

特にございませんでしたら、採択に最もふさわしいと考える教科用図書について、各委員のご意見を確認したいと思います。

菊池委員からお願いいたします。

○菊池委員 私は非常に迷いましたが、東書を推したいと思います。どちらもテーマが最初に出ていて、非常に分かりやすいつくりになっています。言葉は違いますけれども、東書のほうは、例があって、たしかめがあって、問になるという、非常に似たような手法で、戻って繰り返すことによって徐々に分かってもらおうという手法が随所に見られます。昔は全然分からなかったけれども、分かりやすいなと思います。

文字式に関して言うと、文字式というのは、 a 、 b とか、何のことかよく分からない。 a b は $a \times b$ ですよ、それと例えば、69というのは69ですよ。 a に6を入れる、 b に9を入れると、 6×9 の54です。その辺が、僕が中学校1年生のときに非常に分かりにくかった

ことです。それをこの日文だったと思いましたがけれども、 $a b$ と書いてあるけれども、69という意味ではなくて、 $a \times b$ なんだよということを非常に明確に書いてくれています。文字式を明確に書いてくれているので、ああそうかと、今までよく分かりにくかったのはそういうことだったかもしれないということを気付かしてしてくれました。

そういう点で、各者いい点があります。みんな算数から数学になるとギャップを感じる。中1ギャップ、数学で最も大きな部分だろうと。それを分かりやすく自分のもっている経験とリンクさせながら教えてくれるようになっていいるなど。それはどの教科書も同じで、そこから引き込んで、その後に数学そのものの面白さを伝えていくように、うまく誘導されていて、経験だけではない、経験とリンクさせるだけではない数学の面白さを中学校1年生レベルでも、できてきているという印象です。

非常に分かりやすく、どの教科書もよくできているなどと思いましたがけれども、先生方がやはり教えやすい教科書として審議委員の方も推された東書を推薦したいと思います。

○今野委員 数学については、学校が東書と啓林館が特に高かった。それから、調査委員会ではその2つに加えて、日文もAだったと。非常に評価が分かれたところですがけれども、最終的には審議委員会のほうで東書がAという判定になっています。

それにしたがって、各教科書を私なりに比較してみました。結論的には審議委員会の意見のとおりで、東書がいいということになりました。

その理由ですけれども、審議委員会のほうの議論のご説明にありましたように、東書の場合には段階を踏んだ学習ができるような構成を工夫されているということがありました。それから、2点目は、身近な生活や社会との関連でどうなっているかということで見たのですがけれども、東書の場合には各章の初めのところに、いろいろ具体的な生活の場面をもってきて導入を図っている。

例えば、比例、反比例、関数というところでは、ポップコーンのワゴンに並ぶという設定で、時間と人の関係がどのようになっているかというところから進めています。苦手な子でも入りやすいという感じで、各章でそういった工夫がされております。

それから、先ほど委員長のご説明にもありましたけれども、今度は逆に巻末のほうですがけれども、総合的な問題の中で生活との関連で、設問がなされていて、こちらは逆にいろいろな勉強が終わった後、社会の中での問題解決ということになるわけですがけれども、そこでも非常に適切な設問で、生活との関連で考えを深められるということから、いろいろなレベルで身近な生活、社会との関連ということで、工夫が進んでいるのではないかなと思いました。

それから、最後に、決定的だったのは、多面体の付録です。これは昔教科書にはなくて、学習参考書とか学習指導雑誌にはよくあって、とてもよく活用した覚えがあります。これが教科書にあると考えるのにとってもいいと思いましたので、それらを考えて、東書を選びました。

○松尾委員 数学につきましては、学校調査では東京書籍と啓林館が、非常に評価が高く、調査委員会では東京書籍、啓林館、日文がA評価になっておりましたので、全体を見ました。特に東京書籍と啓林館が甲乙つけがたい感じでしたので、特に詳しく内容を見ました。

本当に両者とも甲乙つけがたい感じですが、正直、これだけ教科書が厚くなりまして、どの教科書もこれだけ厚いわけです。そうやってきますと、教科書の内容自体が重要な項目だけすっきりまとまっているということはなかなかないわけです。ですから、学習するにあたっては、教科書を軸に学んでいく、もし必要ならまとめ等は自分で、あるいは先生の指導のもとで、自分でしっかりまとめていくというような、学び方が望ましいと思います。

そう思ったときに、学習を進めていくに当たって、必要な情報がアクセスしやすい形で掲載されている東京書籍のものが、勉強するのにいいだろうと思います。

数学は、ついつい問題を解くということが主眼に思われるわけで、そのこと自体は間違っているわけではないと思いますけれども、例えば期末試験のときには、何も見ないで問題を解きます。しかし、最初から何も見ないで、問題に取り組むべきかということ、そうではなく、学習の初めの段階では、様々な公式、計算規則などを何でも見てやっていいわけです。

そういうものを見て、まず納得するということが一番大切で、勉強の初めの段階では、そういうものの、いろいろな規則とかそういうものを丸暗記するというよりは、それを使っていく中で自然と覚えていくほうが、勉強の仕方としては望ましい感じがいたします。

東京書籍の教科書は、そこで必要になることが比較的丁寧に書き込まれていて、初めに学ぶ段階で非常に分かりやすくなっているという感じがいたしました。かといって、最終的には何も見ないで解けるようになっていかないと、学習が先に進んだ段階で、昔のことを全部忘れてしまって、その都度戻らないといけないというのでは、これは後々もう不便で仕方ないですから、そのときに学ぶべきことはしっかりと学ばなければいけないと思います。それはそれとして数学を理解しやすい、東京書籍のものはそういうつくりになっていると思いますので、私は、新宿区の子どもたちには、東京書籍の教科書を進めたいと思います。

○古笛委員 私も結論としては、東京書籍が一番いいのではないかと思います。それぞれの教

科書はすごく工夫されていて面白いと思いますけれども、先ほどの数学科の委員長のほうから先生が教えやすいと感じられる教科書はどれですかと質問させていただいたときに、東京書籍は、例があって、考え方、解答があって、たしかめがあって、間があって、そういう1つのパターンでずっと進んできているので、これは先生のほうからも教えやすいし、勉強するほうも分かりやすく、間違いやすいところ、もっと練習、脚注のところも上手に書かれているので、東京書籍が一番いいと思いました。

○**教育長** 私も東京書籍を推したいと思います。日本文教出版も本当に良くつくってあって、ある部分では問題の解説の部分は、よく考えられていて、具体的に表現されていて大変いいと思います。ただ、全体的に学校現場がやはり使いやすいという声も大きくて、調査委員会もAということでございますので、これにしたがひまして、東京書籍を推したいと思います。

また、東京書籍の1年生の数学の扉のところに、初めて学ぶ子どもたちへのメッセージが書かれているんです。これがなかなかいいメッセージで、こういう表現ができる編集者がいるというのは、問題の中の説明とかもいいセンスなのではないかと思ひまして、東京書籍を推したいと思います。以上です。

○**羽原委員長** 僕はどちらかと言えば、数学が嫌いになる時期の教科書、それからなるべく近寄らないで過ごしたい、数学の成績が上がらない子という立場、実は自分のことを言っているのですが、そういう目で見えていくと、今、教育長がおっしゃった東京書籍の一種の理念、数字に対する理念、こういうものが身に付いて入っていけばいいと思ひつつ、同じように、啓林館の頭の部分も比較的がいいと思ひました。

僕も東京書籍を推しますが、東京書籍は中に入ってからが、言葉づかいや説明の仕方が、丹念に読んでいくと、家庭で勉強しても、ある程度のところは分かりやすいのではないかと感じました。

そういったことから、数学が苦手な子の代表として、教科書を見たときには、東京書籍がいいのではないかと思ひて推したいと思ひます。

今までの協議内容の確認をしたいと思ひます。数学については本日審議した中で、科目の特性、審議委員会の調査結果を踏まえ、皆様の総意として東京書籍の『新しい数学』を採択の対象となる教科用図書の候補にするということによろしいでしょうか。

〔異議なしの発言〕

○**羽原委員長** それでは、そのように進めていきたいと思ひます。

次に、英語について、教科用図書審議委員会ではどのような審議、検討が行われたのかご

説明をお願いします。

○中野審議委員 それでは、英語について私のほうからご説明を申し上げます。

まず、学校調査の結果についてです。最もA評価が多かったのが、三省堂で10校中6校がA評価でございました。調査委員会調査の結果としては、東書が総合評価でAでした。審議委員会では、東書をA評価といたしました。

その理由、意見として、肯定文と疑問文を併記し、語順が変わることを視覚的に気付かせる工夫がなされている。1年生の冒頭の単元では、各活動が多く示されるなど、全体的に書くことを重視している。等があがりました。

また、審議委員会では、他者に関する意見として、開隆堂については辞書の使い方が1年生の前半部分で紹介されており、早い段階で辞書の使い方を学習できる。学図については、おせちや書き初め、相撲部屋、世界遺産などの生徒の興味、関心を高める題材を扱っている。

三省堂については、For Self-studyのコーナーは、生徒の自主的な学習を促すものとなっている。教出については、別冊Essentialsでは、PLUS Dialog、PLUS Activityなどが設けられており、生徒に基礎的、基本的な内容の確実な定着を図ることができる。

最後に光村です。英語で学び考えようは、他教科との関連を図った学習ができるよう工夫している。などのよい点があげられました。

最終的に、審議委員会として学校調査、調査委員会調査の報告等を踏まえ、教科書を確認しながら、総合的に判断した結果、調査委員会評価でA評価であった東書をAと評価いたしました。

○羽原委員長 説明が終わりました。ご質問、ご意見等がございましたらどうぞ。

○今野委員 質問です。調査委員会も審議委員会のほうも東書ということですがけれども、学校で一番三省堂が多かった理由、学校ではどういうところが一番引かれたところでしょうか。

○中野審議委員 学校調査の報告書で見させていただきますと、例えば職場体験、プレゼンテーション、日本文化など身近で大切な題材を扱っているというところ、付録、巻末にあるものが充実しており、文法や英作文指導に有効であるというところが意見として出されております。

○今野委員 そういうことを考え抜いた上でもやはり東書のほうが総合的には先ほどのような理由で学校現場のそういう意見があったとしても、東書のほうがいいという、最終判断ということですね。

○中野審議委員 さようでございます。

○羽原委員長 ほかにございますか。

○菊池委員 自分で見つけられなかったのですが、東書のほうで、前置詞のことについて、どこに書いてありましたか。

文法ということはあまり意識しないようにという趣旨で、東書のほうは言っているように思います。だから、どちらかと言うと、三省堂のNEW CROWNのほうが、文法に関してはしっかりと銘打って、文法を意識して、前置詞についても触れてあったと思います。東書のほうはあまり文法を意識しないようにとあえてしているような感じもしまして、特に前置詞、forはどっちの方向へとか、期間とか、ためにとか、そんなイメージですよ。昔の英語を習った者のこだわりなのかもしれないですけども、結構前置詞は大事なのかなと思っていて、当たり前を使うけれども、前置詞についてどこに触れているかということをお教えいただきたいと思います。

○中野審議委員 東京書籍の前置詞についての取扱いですけども、NEW HORIZONの2年生の巻末のところに場所をあらわす前置詞、それから時をあらわす前置詞ということで、ここで一覧として取り扱われております。

○羽原委員長 ほかにございますか。

○教育長 先ほど質問の方がよかったと思いますが、新宿区の子どもの実態という話で、東京全体の5ポイントのところに、40%という話をしていました。それをもう少し詳しく説明していただきたいと思います。

○中野審議委員 毎年、中学校2年生を対象に、都の学力調査を実施しております。

結果として、平均正答率が出てきます。それよりも5ポイント以上下回っている生徒たちの比率がどれぐらいいるかということです。

○教育長 正答率が分かりやすく50%だとすると、点数で言えば50点。45点以下の生徒がどれぐらいいるかということで、先ほどの説明だと、45点以下の生徒が40%いると、そういう話ですね。40%いるというのは、正答率を誤差の範囲内で、正答率の平均よりも上がっている人間が大体半分ぐらいしかいない、そういう話ですか。

○中野審議委員 そうです。

○教育長 そのぐらいの実力の生徒のことを考えて、教科書をどう選ぶかという話だということですか。

○中野審議委員 審議委員長も申しましたが、確かに新宿区としては学力差が大きいということが実態として挙げられます。ですので、英語が苦手なお子さんがいるという一方で、反対に英語の得点がしっかり取れているお子さんもいるわけですし、その中で、基礎・基本

も押さえられながら対応できる教科書はどれかという視点で選定を行いました。

○羽原委員長 それでは、採択に最もふさわしいと考える教科用図書について、各委員のご意見を確認したいと思います。

○教育長 私は審議委員会と同じ、東京書籍がいいと思います。やはり英語が苦手な人間の代表として言うと、語彙の順番を入れ替えて提示しているというのは、すごいアイデアというか分かりやすい。視覚的に非常に分かりやすい話で、構造的に子どもたちが理解できるのかなと思います。これを使って、子どもたちが英語に取りかかりやすくしてあげることができるのではないかなと思いますので、東書を推したいと思います。

○古笛委員 私も結論としては、東京書籍になりました。三省堂のNEW CROWNは自分も慣れ親しんだということがあるのでいいと思いましたが、東京書籍が一番いいと思ったのは、ページを開いたときに、会話があって、右の上には基本文が分かりやすく、どのページにも記載されているということと、それが視覚的に分かりやすいということです。それがずっと繰り返し3年間続くということ。それから、終わりのところにまとめがあったり、学び方のコーナーというのも丁寧に、辞書の使い方が何回も出てきたり、いろいろ差もあるかと思いますが、一番新宿区の子どもたちにはあっていると感じました。

○松尾委員 私も英語に関しては東京書籍のNEW HORIZONがよいと思います。理由としては、今までの意見の繰り返しになりますけれども、基本文というところが非常に見やすくできていて、見ると視覚的に規則が大体分かって、基本的なところが分かる。

先ほど委員長は文法を中心とした学習の問題点を指摘されましたが、そうは言っても全く文法なしで、会話文だけ見て、理解することは非常に難しいわけで、それをやろうとすると、膨大な量の会話例を覚えなければならないことになります。

ただ、そんな時間的余裕もありませんから、少ないよりは勉強できる範囲内で様々な例に当たれば、それはそれでいい面もあるかもしれませんが、やはりある程度の規則を学んで、その規則に従って話をすると、基本的なものから様々な文章が話せるようになるということであります。その文の基本的な構造について分かりやすく理解して、英語を学ぶことができるということは、これはもう非常に大きなメリットであると思います。

ですから、文法ばかり学んでもあれですけども、文法的な部分を積極的に、有効に使って英語を学びやすくするという形で構成されているように私は思いました。各者工夫されていると思いますけれども、とりわけ東京書籍はその点で優れていると感じました。

○今野委員 英語は学校と調査委員会で異なる評価ですけども、総合的に審議委員会のほう

では、東書をAという判定でございました。

私もいろいろ見ながら、やはり東書が審議委員会どおりでいいのではないかと判断しました。その理由ですけれども、皆さんから指摘されているように、語順の表記の仕方がとても分かりやすいと思いました。多分、教科書ではあまりこういうのは見なかったと思いますけれども、自分が勉強していたときには参考書のたぐいでやはりこのような示し方は昔もあったと思います。とても分かりやすかった覚えがありますので、有効ではないかなと思いました。

それから、2つ目は、今日、調査委員長のお話にありましたように、各単元で、4技能を総合的に伸ばす活動が用意されている。ということで、マークがあって、ここの部分で、Listen、Speak、Writeというふうなことがまとまって、項目ごとに意識化されているのでいいと思います。こういう活動自体は通常の教科書でもあったような気がしますけれども、意識化させてまとめて出てくるというのは確かに総合的に技能を伸ばすということで、有効ではないかなと思いました。

それから、辞書の使い方についての表示が特徴的だったと思います。いろいろ比べてみると、ほかでも辞書を示して説明するところがありますけれども、東書は断然見やすくて分かりやすい説明になっています。1年生の場合に、2カ所で非常に的確に辞書の使い方が出てきていて、これは非常に大きいのではないかなと思いました。ほかのところは辞書の一部だけであったり、整理されずにそのまま小さく出ているだけでした。

以上のようなことから、東書がいいと思いました。

○菊池委員 これはどちらも優れた教科書であると思います。要するに、英語を学ぶというのは何だという話ですけれども、外国人というか、ユニバーサルに、話すことができる言葉を楽しく学びたいということが一番の目的だと思います。英語は楽しいですよ、実は。私は、昔は苦痛だった時期がありましたけれども、それを乗り越えてからは英語を話すことは非常に喜びです。今はもう下手になってしまいましたけれども、とにかく異文化と接触することもできます。英語が少しでも話せれば外国人と楽しく話せます。流暢に話せる必要はないのです。

本当に挨拶から始まって、あなたはどこから来たのというスタート、ここから会話が広がって行って、非常に楽しい思いができるということ子どもたちに知ってもらおうということがものすごく大事で、その点、東書もNEW CROWNもよくできていると思います。英語の楽しさを伝えることは小学校のときから既にやっているかもしれないけれども、それで今、子

もたちの要望はということで、書くこともしたいという要望があったと聞いています。どうやって書くのかという書き方は東書の最初は、小学校のときを振り返って、その後すぐに単語の書き方という、書くということの第一歩が非常に分かりやすく書いてあります。今まで話してきたことと、書いて視覚的にこういうことだという理解が、そこで初めてリンクして理解が深まる。楽しさがそこでまた倍増するのではないかと。そういう入り方になっているなと思いました。

使える英語でないと意味がないので、コミュニケーションのためのものなので、文法的にどんな難しい言葉であっても、実際には幼児に、あなたこんなことをしてはいけませんよと、Don't do itという言い方もあるかもしれないけれども、You are not allowed to do itなんて、難しいことを言います。日常会話ですごくよく出てくるので、あなたこんなことしちゃいけませんという、最初に子どもが教わる言葉で、そういう複雑なものです。

そこまで言わなくてもいいけれども、そういう日常会話で使える言葉をどんどん覚えていく作業が英語の初歩だと思います。

なので、この東書の入り方は非常に優れていて、自分が何であるかというアイデンティティから入っているし、あなたは誰ですか、どこから来たの、とか。非常にそういう入り方がうまい。学校では、どういう言葉を使うか。

ここでThis is a penが、This is my penですけれども、昔自分たちが習ったことがここに出てくるのかなと、それなら許せるのかなとか。現実で使える英語を子どもたちに教えてあげようと、そういう思いがすごく伝わってきます。

私が習ったときの英語は苦痛以外の何物でもなかったですけれども、今の教科書は、レストランで使える言葉とか。レストランで何を頼んでいいか分からなかった辛い経験もありますし、いろいろな辛い経験を踏んで来た中で、これを知っていれば全然問題なかったと、本当に思う内容です。非常によくできた教科書であると。

その中でも推薦されているNEW HORIZONとNEW CROWNと比べた場合に、文法にこだわっているのはNEW CROWNだと思います。

前置詞がどこにあるか分からなかったのが、2年生の前置詞は非常に分かりやすく、NEW CROWNの前置詞が書いてあるところよりもかなり分かりやすいような気がしました。文法にこだわらないけれども、そういうことはしっかりと参考資料の中に散りばめられているという点で、よくできていると思いました。

そのため、東京書籍を推したいと思います。

○羽原委員長 僕も東書を推したいと思います。菊池先生のお話と同じようなバックボーンがあります。挨拶から入って、身の回りのこと、数字、曜日、12カ月、飲み物、食べ物、どれも似ているようだけれども、流れとしては生活に根ざしたというか、身の回りのことから入っているというところがいいと思っています。英語嫌いにさせない、あるいは小学校で学んだことを身近に感じさせるということ、これがあると思いました。

どの教科書にもありますが、外国人の先生もいるので異文化と触れる楽しさといったところから、興味をかき立ててもらいたいと思います。勉強というよりも生きていく中で、面白みを倍増させるものが言葉だという、そんなことを教えてほしいと思いつつ、東書がいいと思いました。

また、そこにこだわるわけではありませんが、1年生の開いたところに、韓国語があります。しかし、三省堂のほうは、同じようなつくりだけれども、なぜか一番身近であるべき韓国語がない。大したことではないですが、新宿区的に言えば、アジア語があったほうがいい。スワヒリ語とかカンボジア語とか、NEW CROWNのほうも増えてはいるが、やはりなるべく身近だと思えるような言葉が導入部にあったほうがいいと思います。そんな印象をもちました。

それでは、今までの協議内容の確認をしたいと思います。英語については本日審議した中で、科目の特性、審議委員会の調査結果を踏まえ、皆様の総意として東京書籍のNEW HORIZONを採択の対象とする教科用図書の候補にするということによろしいでしょうか。

[異議なしの発言]

○羽原委員長 では、そのように進めたいと思います。

以上で、本日の種目ごとの質疑と採択対象となる教科用図書の候補の絞り込みを終了いたします。3日間にわたる絞り込みは終了いたしました。

本日まで、各種目について協議してまいりましたが、採択候補となった教科用図書については、教育長に議案としてまとめていただき、8月7日の第8回定例会に提案するようお願いいたします。

ここで、次回の教育委員会の議案の形式及び審議の進め方についてお諮りしたいと思います。

教科用図書の候補の1種への絞り込みを済ませておりますので、全種目を一括して掲載した議論とさせていただき、全種目を一括して審議した後、一括採決を行うということで、進めさせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

[異議なしの発言]

○羽原委員長 それではそのように進めていきたいと思います。

本日の協議は終了いたしました。

事務局から何かございますか。

○教育調整課長 特にございません。

◎ 閉 会

○羽原委員長 それでは、本日の教育委員会を閉会いたします。

長時間、ありがとうございました。

傍聴席の皆さん、ありがとうございました。

ありがとうございました。

午後 5時38分閉会